Canon

EOS 40D DIGITAL



Exif Print DPOF PictBridge HI-SPEED CERTIFIED USB

J

使用説明書

Canon EOS 40D DIGITAL 使用説明書 J

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

　EOS 40D は、有効画素数約1010万画素・高精細CMOSセンサー、DIGIC III、高精度・高速9点AF（全点クロス測距）、約6.5コマ/秒・高速連続撮影機能を搭載した、高性能デジタル一眼レフカメラです。

　本機は、いつでもすぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能、撮影領域をさらに拡大する幅広いシステム拡張性など、さまざまな特長を備えています。

　また、EOS Integrated（インテグレイテッド） Cleaning（クリーニング） System（システム）（総合的なセンサーダスト対策）に対応しており、撮像素子に付着したゴミを取り除く、セルフ クリーニング センサーユニットも搭載しています。

撮影しながら操作すると理解が深まります

　デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

　なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（10、11ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

　撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やCFカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

　あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと付属品の確認

　ご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。付属のアクセサリーは、システムマップ（p.176）でも確認できます。

- □ **カメラ：EOS 40D**
  （アイカップ、ボディキャップ付き、日付/時計機能用電池内蔵）
- □ **レンズ：EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS、または**
  EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM
  *レンズ付きキットをお買い求めの場合
  *レンズキットの種類によっては、上記以外のレンズとその使用説明書が入っていることがあります。
- □ **電池：バッテリーパックBP-511A**（保護カバー付き）
- □ **充電器：バッテリーチャージャー CG-580**
- □ **ケーブル 2本**
  - □ **インターフェースケーブル IFC-200U**
  - □ **ビデオケーブル VC-100**
- □ **ストラップ：EW-100DGR**（アイピースカバー付き）

- □ **CD-ROM 2枚**
  - □ **EOS DIGITAL Solution Disk**（イオス デジタル ソリューション ディスク）（付属ソフトウェア）
  - □ **ソフトウェア使用説明書**（PDF形式の使用説明書）

- □ **ポケットガイド**
  すぐに撮影したい方は、このポケットガイドをご覧ください。
- □ **EOS 40D使用説明書**（本書）
- □ **CD-ROMガイド**
  付属ソフトウェア、およびソフトウェア使用説明書のガイドです。

- □ **お客様ご相談窓口、修理受付窓口一覧／安全上のご注意**
- □ **カメラ保証書**
- □ **レンズ保証書**　*レンズ付きキットをお買い求めの場合

※ 付属品は、なくさないようご注意ください。
※ 画像を記録する**CFカードは付属していません**。別途ご購入ください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字などについて

- 〈メイン電子ダイヤル〉は、「メイン電子ダイヤル」を示しています。
- 〈サブ電子ダイヤル〉は、「サブ電子ダイヤル」を示しています。
- 〈マルチコントローラー〉は、「マルチコントローラー」を示しています。
- 〈SET〉は、「設定ボタン」を示しています。
- ⏱4／⏱6／⏱16は、操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態が、それぞれ4秒／6秒／16秒間保持されることを示しています。
- そのほか、本文中のボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。
- MENUは、〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。
- ページタイトル右上の応用は、応用撮影ゾーン（p.18）限定で使用できる機能であることを示しています。
- （p.＊＊）の＊＊は、参照ページを示しています。
- 本文中の「撮影準備状態」とは、液晶モニターにメニューや画像が表示されていない（すぐに撮影できる）状態を意味します。

💡 ? ❗ 📝 について

💡：上手に使うためのヒントや撮影のポイントが書かれています。

?：困ったときの手助けになる事項が書かれています。

❗：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

📝：基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉または〈⤶〉になっていることを前提に説明しています。（p.30）
- 〈サブ電子ダイヤル〉の操作は、電源スイッチが〈⤶〉になっていることを前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- EF-S17-85mm F4-5.6 IS USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

目次

機能目次

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生をふせぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、CFカード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルと液晶モニターについて

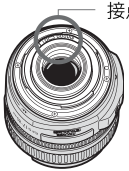
- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の残像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。

CFカードについて

- CFカードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないでください。CFカードに記録されている画像が壊れる原因となります。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすい所で保管、使用しないでください。CFカードに記録されている画像データが消えることがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。CF カードが変形して使用できなくなります。
- CFカードに液体をこぼさないでください。
- 大切な画像データを守るため、CF カードは必ずケースなどに入れて保管してください。
- 曲げたり、強い力や衝撃を与えないでください。
- 温度の高い所、ほこりや湿気の多い所に保管しないでください。

レンズの接点について

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

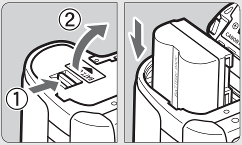


長時間使用時のご注意

連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがありますので、ご注意ください。

すぐ撮影するには

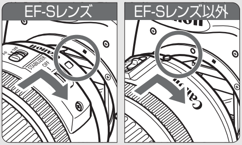
1



電池（バッテリー）を入れる（p.24）

電池の充電方法については22ページを参照してください。

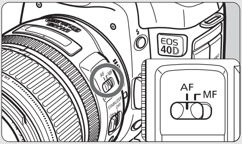
2



レンズを取り付ける（p.28）

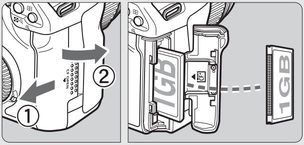
EF-Sレンズは白い指標、EF-Sレンズ以外は赤い指標に合わせて取り付けます。

3



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.28）

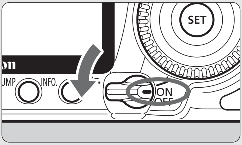
4



CFスロットカバーを開け、CFカードを入れる（p.26）

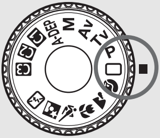
CFカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。

5



電源スイッチを〈ON〉にする（p.30）

6



モードダイヤルを〈□〉（全自動）にする（p.44）

撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

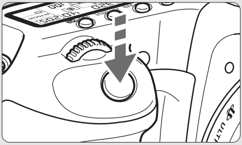
7



ピントを合わせる（p.30）

ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

8



撮影する（p.30）

さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9



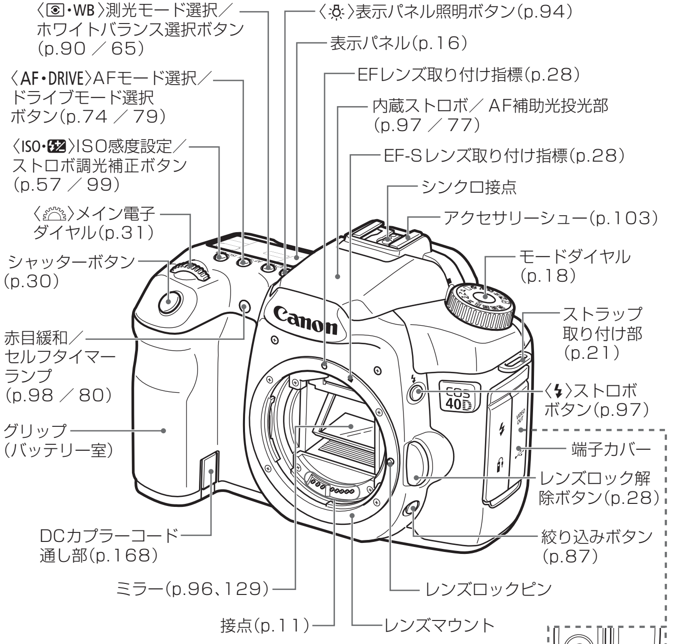
撮影した画像を確認する（p.123）

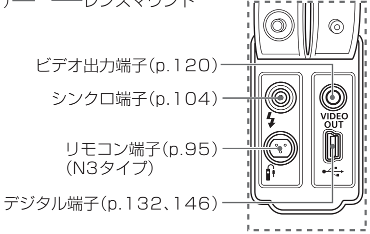
撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。

- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.114）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『画像を消去する』（p.122）を参照してください。

各部の名称

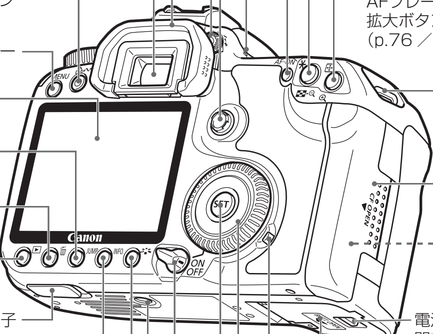
（p.＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

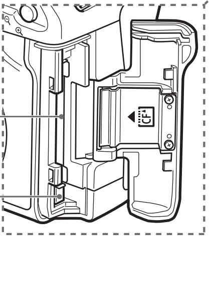






ボディキャップ(p.28)


〈⊖〉撮像面マーク
〈✣〉マルチコントローラー(p.32)
視度調整つまみ(p.33)
アイカップ(p.95)
ファインダー接眼部
〈⎙〜〉イージーダイレクトボタン(p.137、147)
〈MENU〉メニューボタン(p.34)
液晶モニター(p.34、123)
〈JUMP〉ジャンプボタン(p.117)
〈🗑〉消去ボタン(p.122)
〈▶〉再生ボタン(p.114)
拡張システム端子
〈INFO.〉インフォ／トリミング枠縦横切り換えボタン(p.110、114、166 ／ 139)
〈⚟〉ピクチャースタイル選択ボタン(p.59)
三脚ねじ穴
電源／サブ電子ダイヤルスイッチ(p.30)
〈SET〉設定ボタン(p.34)
〈AF-ON〉AFスタートボタン(p.30、74、112)
〈✱ ／ ⊞·Q〉AEロック/FEロックボタン／インデックス/縮小ボタン(p.93/100 ／ 117/118、139)
〈⊡ ／ ⊕〉AFフレーム選択／拡大ボタン(p.76 ／ 118、139)
ストラップ取り付け部(p.21)
CFカードスロットカバー(p.26)
電池室ふた開放レバー(p.24)
電池室ふた(p.24)
アクセスランプ(p.27)
〈◎〉サブ電子ダイヤル(p.32)
MENU
AF-ON
SET
Canon
JUMP
INFO.
ON
OFF
CF OPEN


CFカードスロット(p.26)
CFカード取り出しボタン(p.27)
CF

表示パネル

- シャッター速度
- データ処理中(**buSY**)
- 内蔵ストロボ充電中(**buSY**)

記録画質
- **L** ラージ／ファイン
- **L** ラージ／ノーマル
- **M** ミドル／ファイン
- **M** ミドル／ノーマル
- **S** スモール／ファイン
- **S** スモール／ノーマル
- RAW ロウ
- SRAW スモールロウ

ホワイトバランス
- AWB オート
- 太陽光
- 日陰
- くもり
- 白熱電球
- 白色蛍光灯
- ストロボ
- マニュアル
- 色温度

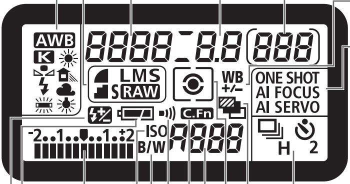
- ストロボ調光補正
- 電池チェック

露出レベル表示
- 露出補正量
- AEBレベル
- ストロボ調光補正量

- CFカード書き込み経過表示
- ISO表示
- モノクロ撮影
- 電子音

- AFフレーム選択(**[-:::-]**)
- CFフル警告(**FuLL CF**)
- CFエラー警告(**Err CF**)
- CF未装填警告(**no CF**)
- エラーコード(**Err**)
- 撮像素子の清掃中(**CLEA n**)
- 絞り数値
- 撮影可能枚数
- WBブラケティング時の撮影可能枚数
- セルフタイマー作動表示
- バルブ露光時間
- ホワイトバランス補正/WBブラケティング

AFモード
- **ONE SHOT** ワンショットAF
- **AI FOCUS** AIフォーカスAF
- **AI SERVO** AIサーボAF



ドライブモード
- 1枚撮影
- 高速連続撮影
- 低速連続撮影
- セルフタイマー(10秒)
- セルフタイマー(2秒)

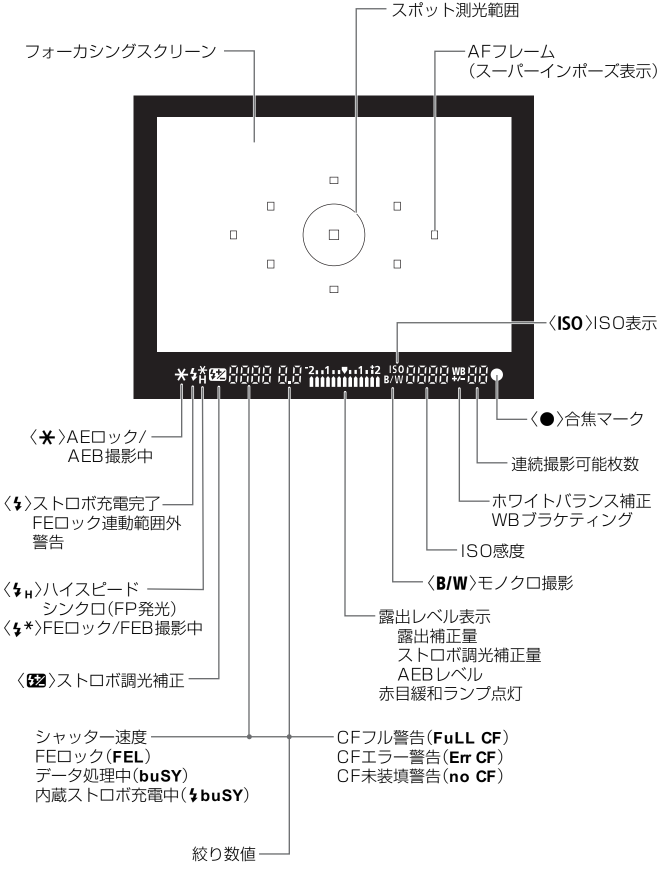
- AEB撮影

測光モード
- 評価測光
- 部分測光
- スポット測光
- 中央部重点平均測光

- ISO感度
- カスタム機能

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示



表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

　モードダイヤルは、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンに分けられています。

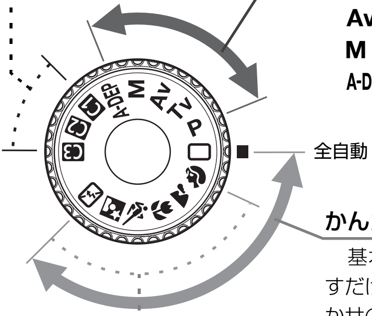
カメラユーザー設定

　カメラに設定されているほとんどの内容を、C1、C2、C3に登録することができます。（p.163）

応用撮影ゾーン

　思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P　：プログラムAE（p.82）
Tv　：シャッター優先AE（p.84）
Av　：絞り優先AE（p.86）
M　：マニュアル露出（p.88）
A-DEP：自動深度優先AE（p.89）



かんたん撮影ゾーン

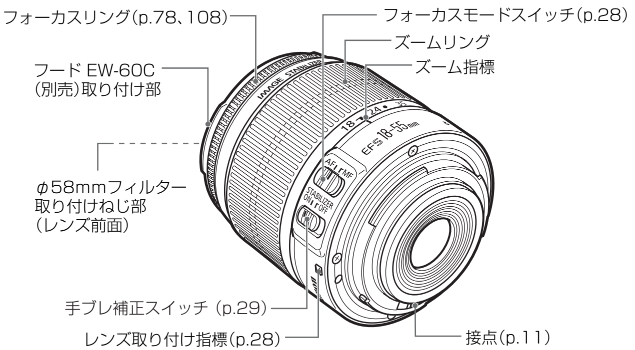
　基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体に応じてカメラまかせの全自動撮影ができます。

□：**全自動**（p.44）

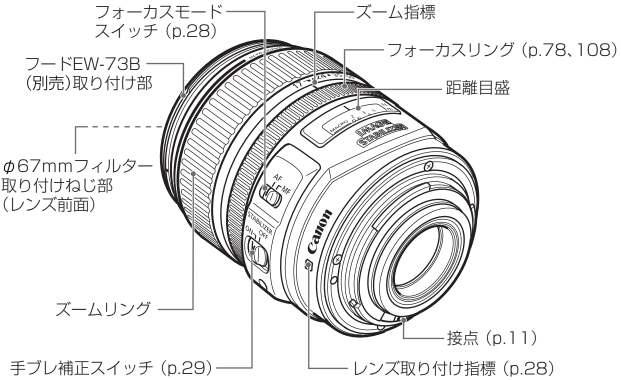
イメージゾーン

：ポートレート（p.47）
：風景（p.48）
：クローズアップ（p.49）
：スポーツ（p.50）
：夜景ポートレート（p.51）
：ストロボ発光禁止（p.52）

EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS レンズ

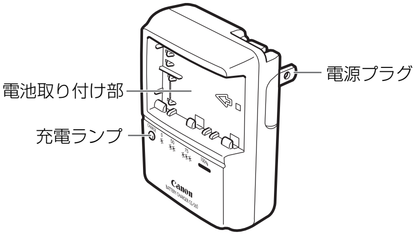


EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM レンズ



バッテリーチャージャー CG-580

バッテリーパックの充電器です。（p.22）





- この製品には、リチウムイオン電池を使用しています。
- この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- この電池の回収、リサイクルについては、下記のキヤノンホームページ上で確認できます。
- 交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
- リサイクル協力店についてのお問い合わせは、以下へお願いします。
  - ・製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
  - ・有限責任中間法人 JBRC
    ホームページ：http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
  - ・「キヤノン／キヤノンマーケティングジャパン」
    ホームページ：http://cweb.canon.jp/ecology/recycle5.html

リサイクル時のご注意：電池を分解しないでください。

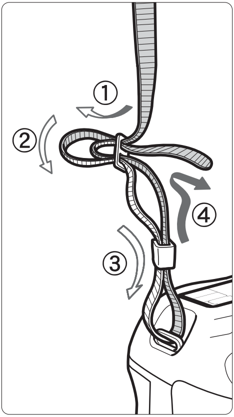
妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

1

使用前の準備と操作の基本

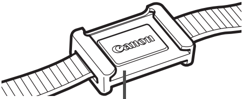
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本的な操作方法について説明します。



ストラップ（吊りひも）の取り付け方

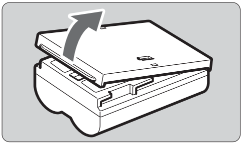
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。止め具の部分のたるみを取り、引っぱっても止め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています。（p.95）



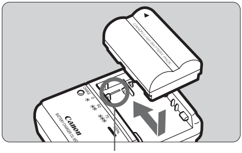
アイピースカバー

電池を充電する



1 保護カバーを外す

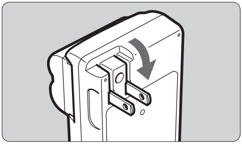
- 電池をカメラから取り出したときは、ショート防止のため、必ずカバーを取り付けてください。



取り付け指標

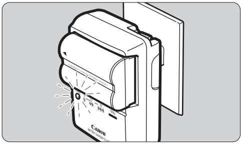
2 電池を取り付ける

- 充電器の線（取り付け指標）に電池の先端を合わせ、押し付けながら、スライドさせて取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。



3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。



4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、赤い充電ランプが点滅します。
- ➡ **使い切った電池の充電に要する時間は、次のとおりです。**なお、充電時間は、周囲の温度や電池の残り容量によって異なります。
  BP-511A、BP-514: 約100分
  BP-511、BP-512: 約90分
- 充電器に印刷されている数字とマークは、左の表を図式化したものです。

充電状態	充電ランプ
0〜50%	1回／秒：点滅
50〜75%	2回／秒：点滅
75〜90%	3回／秒：点滅
90%以上	点灯

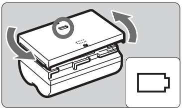
電池と充電器の上手な使い方

● 充電は、使用する当日か前日にする

充電して保管していても、少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

● 充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く

● 保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする



充電済みの電池に保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈 〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。

● 電池は0℃～40℃の範囲で使用する

電池の性能を十分に発揮させるためには、10℃～30℃の範囲で使用することをおすすめします。スキー場などの低温下では電池の性能が一時的に低下し、使用できる時間が短くなることがあります。

● カメラを使わないときは、電池を取り出しておく

電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電になり、電池寿命短縮の原因となります。電池をカメラから取り出し、保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● 充電器は海外でも使うことができる

充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる地域に対応した、市販の変換プラグアダプターをお買い求めください。なお、充電器が故障するおそれがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

● フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命

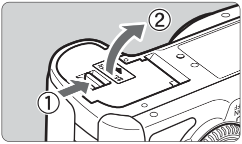
新しい電池をお買い求めください。

- バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512以外は充電しないでください。
- バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

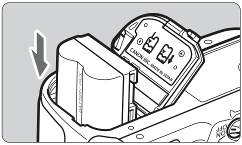
電池を入れる／取り出す

入れ方

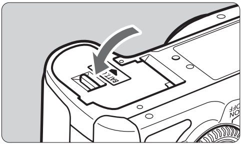
充電したバッテリーパックBP-511Aをカメラに入れます。



1 ふたを開ける
- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 電池を入れる
- 電池の接点を下にして入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

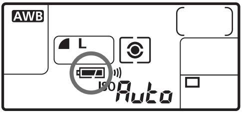


3 ふたを閉める
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

バッテリーパックBP-514、BP-511、BP-512も使用できます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉または〈⤶〉にしたときに（p.30）、4段階で表示されます。



：電池の容量は十分です。
：残量が少なくなっています。
：もうすぐ電池切れになります。
：電池を充電してください。

撮影可能枚数の目安

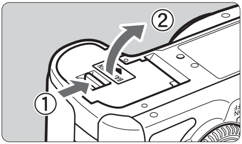
[約・枚]

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	1100	800
低温（0℃）	950	700

- 撮影可能枚数は、フル充電のBP-511A使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

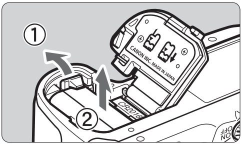
- 実際の撮影条件との違いにより、撮影可能枚数が表記数値よりも少なくなることがあります。
- 液晶モニターを頻繁に使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AF（オートフォーカス）のみを行って撮影しない操作を頻繁に行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
- BP-514使用時の撮影可能枚数は、表記枚数と同じになります。
- BP-511、BP-512使用時の撮影可能枚数は、常温で表記枚数の約75%になります。低温では表記数値とほぼ同じになります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズの種類によっては、撮影可能枚数が少なくなります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、110ページを参照してください。

取り出し方



1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 電池を取り出す

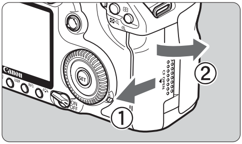
- 電池ロックレバーを矢印方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバーを取り付けてください。

CFカードを入れる／取り出す

撮影した画像は、CFカード（別売）に記録されます。

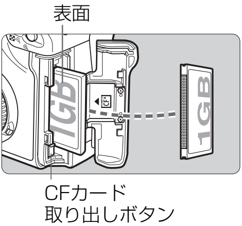
CFカードには、厚さの異なる2種類のタイプがありますが、このカメラでは、どちらのタイプも使用できます。また、ハードディスクタイプのものや2GB以上の大容量のCFカードも使用できます。

入れ方



1 カバーを開ける

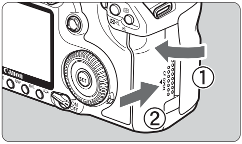
- カバーを矢印の方向にスライドさせてから、開きます。



2 CFカードを入れる

- **図のように CF カードのおもてを手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。**
  <u>CFカードを入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。</u>

➡ CF カード取り出しボタンがせり出します。





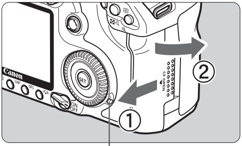
3 カバーを閉める

- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。

➡ 電源スイッチを〈ON〉または〈⤶〉にすると、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

> 撮影可能枚数は、使用するCFカードの空き容量や、記録画質、設定したISO感度などにより変わります。

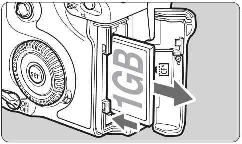
取り出し方



アクセスランプ

1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**



2 CFカードを取り出す

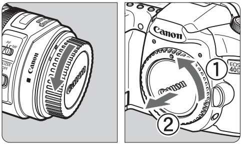
- CF カード取り出しボタンを押し込みます。
- ➡ CFカードが出てきます。
- カバーを閉じます。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、CFカードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合により、CFカードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因となります。**
  - **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **・CFカードスロットカバーを開ける**
  - **・電池を取り出す**
- 画像が記録されているCFカードを使用すると、画像番号0001から撮影されないことがあります。（p.70）
- 表示パネルに「**Err CF**（エラーシーエフ）」が表示されたときは、41ページを参照してください。
- ハードディスクタイプのカードを手で持つときは、必ずカードの側面を持ってください。平面部分を持つとカードが壊れることがあります。
- ハードディスクタイプのカードは、CFカードに比べると振動や衝撃に弱いため、特に記録/再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分に注意してください。

メニュー［**カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、CFカードを入れ忘れたまま撮影することを防止できます。

レンズを取り付ける／取り外す

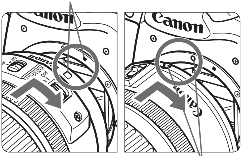
取り付け方



1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

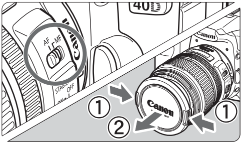
EF-Sレンズ取り付け指標



EFレンズ取り付け指標

2 レンズを取り付ける

- EF-Sレンズとカメラの、白いEF-Sレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。
- EF-Sレンズ以外を取り付けるときは、赤いEFレンズ取り付け指標に合わせます。

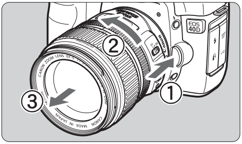


3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈MF〉になっているとオートフォーカスできません。

4 レンズキャップを外す

取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。

> ⚠ レンズの取り付け／取り外しを行う際に、ゴミやホコリがマウント部からカメラ内部に入らないよう、十分に注意してください。

手ブレ補正機能について

手ブレ補正機能付きのレンズでは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてシャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正機能が働きます。ファインダー像が安定してから撮影してください。

- バルブ（長時間露光）撮影をするときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にしてください。〈ON〉にすると手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- シャッターボタンから指を離しても、約2秒間は手ブレ補正機能が作動していますので、この間にレンズを外さないでください。故障の原因になります。
- 手ブレ補正機能を使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。

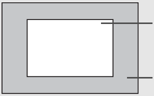
無限遠の被写体に手動でピントを合わせるときは

無限遠の被写体に対して手動ピント合わせを行うときは、ファインダーでピントを確認してください。フォーカスリングを無限遠に突き当てた状態で撮影すると、ピントが合わないことがあります。

レンズ単体を通して太陽光を直接のぞかないでください。失明の原因となります。

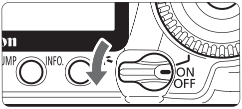
撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。



撮影の基本操作

電源／サブ電子ダイヤルスイッチ

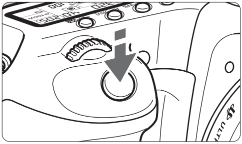


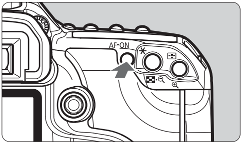
〈OFF〉：カメラは作動しません。使用しないときはこの位置にします。
〈ON〉：カメラが作動します。
〈⌐〉：カメラと〈◎〉が作動します。(p.32)

- 電源スイッチを〈ON/⌐〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます。清掃中は、液晶モニターにマークが表示されます。
- 電池の消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと電源が自動的に切れます。シャッターボタンを押すと再度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー［ꟾY′ オートパワーオフ］で変更することができます。(p.40)
- CFカードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、［書き込み中...］が表示され、記録が終了してから電源が切れます。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。



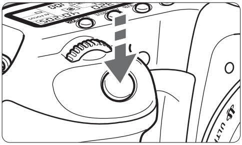


半押し（⏱4）

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値が、表示パネルとファインダー内に表示されます。

応用撮影ゾーンでは、〈AF-ON〉ボタンを押しても半押しと同じ操作になります。

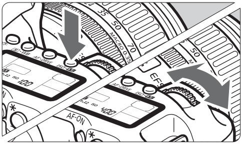


全押し

シャッターが切れて撮影されます。

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

〈 〉メイン電子ダイヤルによる機能の選択と設定

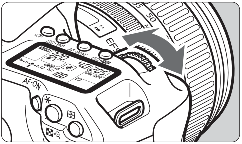


(1) ボタンを押した後、〈 〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（6）で保持されます。その間に〈 〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 測光モード、AFモード、ISO感度、AFフレームの選択に使用します。



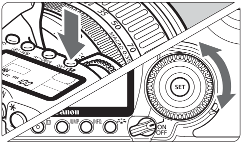
(2) 〈 〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値などの設定に使用します。

〈◎〉サブ電子ダイヤルによる機能の選択と設定

〈◎〉を操作するときは、電源スイッチを〈↲〉にしてください。

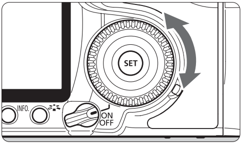


(1) ボタンを押した後、〈◎〉を回す

ボタンを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈◎〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ホワイトバランス、ドライブモード、ストロボ調光補正、AFフレームの選択・設定に使用します。



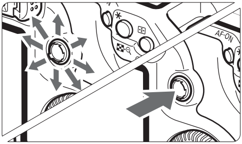
(2) 〈◎〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

(1)の操作は、電源スイッチが〈ON〉の位置でも行うことができます。

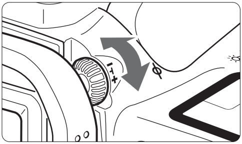
〈✥〉マルチコントローラー操作



〈✥〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。

- AF フレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影時におけるフォーカスフレームの移動、再生時における拡大表示位置の移動などに使用します。
  また、メニューの選択を行うことができます。（[**画像消去**] と [**CFカード初期化**] を除く）

ファインダーが鮮明に見えるように調整する



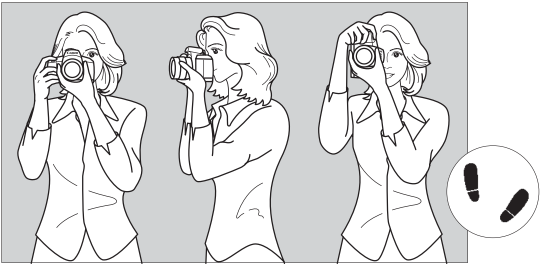
視度調整つまみを回す

- ファインダー内の AF フレームがもっとも鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかりと構えて撮影します。

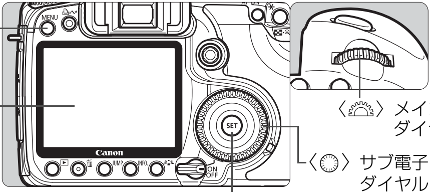


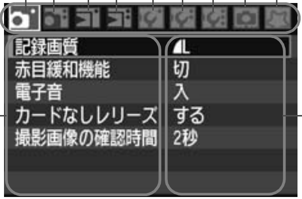
横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前につけます。
⑤カメラを額につけるようにして、ファインダーをのぞきます。
⑥片足を軽く踏み出して、体を安定させせます。

メニュー機能の操作と設定

　このカメラでは、記録画質やピクチャースタイル、日付/時刻、カスタム機能など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。メニュー機能の基本操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈◎〉〈◎〉を使って行います。





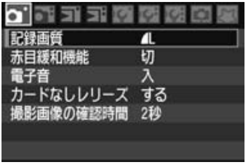
* **[(icon)/(icon)/(icon)/(icon)] タブは、全自動モードなどのかんたん撮影ゾーンでは表示されません。**

アイコン	色	系統	説明
(icon)/(icon)	赤	撮影系	撮影に関する項目
(icon)/(icon)	青	再生系	撮影した画像の再生操作に関する項目
(icon)/(icon)/(icon)	黄	機能設定系	カメラの機能に関する項目
(icon)	橙	カメラのカスタマイズ機能	
(icon)	緑	よく使うメニュー機能やカスタム機能の登録	

メニュー機能の基本操作

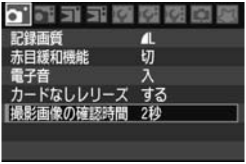
1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。



2 タブを選ぶ

● 〈〉を回してタブを選びます。



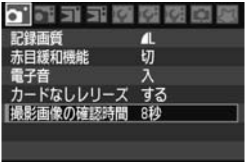
3 項目を選ぶ

● 〈〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。



4 内容を選ぶ

● 〈〉を回して内容を選びます。



5 内容を設定する

● 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

メニュー機能一覧

撮影1（赤）

		参照頁
記録画質	L／L／M／M／S／S／RAW／SRAW RAW+（L／L／M／M／S／S） SRAW+（L／L／M／M／S／S）	54
赤目緩和機能	切／入	98
電子音	入／切	–
カードなしレリーズ	する／しない	27
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	123

撮影2（赤）

AEB設定	1/3段ステップ、±2段	92
ホワイトバランス	AWB／☀／⌂／☁／✳／▥／ϟ／▲ ／K（2500～10000）	65
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	66
WB補正/BKT設定	WB補正：ホワイトバランス補正 WB-BKT：ホワイトバランスブラケティング	68 69
色空間	sRGB／Adobe RGB	72
ピクチャースタイル	スタンダード／ポートレート／風景／ニュートラル／忠実設定／モノクロ／ユーザー設定1～3	59 ≀ 64
ダストデリートデータ取得	ゴミ消し処理するためのデータを取得	127

再生1（青）

画像プロテクト	画像の保護	121
画像回転	画像の縦横回転	118
画像消去	画像の消去	122
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	141
送信指定	パソコンに送信する画像を指定	148
外部メディアへのバックアップ	WFT-E3（別売）経由、外部メディア使用時に表示	–

再生2（青） 参照頁

ハイライト警告表示	しない／する	115
AFフレーム表示	しない／する	115
ヒストグラム	輝度／RGB	116
オートプレイ	撮影画像の自動再生	119

機能設定1（黄）

オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／切	40
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	70
縦位置画像回転表示	する📷🖥／する🖥／しない	124
INFOボタン表示	通常／カメラ設定／撮影機能	166
CFカード初期化	記録内容を初期化して消去	40
WFTの設定	WFT-E3（別売）装着時に表示	−
記録機能とメディア選択	WFT-E3（別売）経由、外部メディア使用時に表示	−

機能設定 2（黄）

液晶の明るさ	7段階明るさ調整	123
日付/時刻	日付（年/月/日）/時刻（時/分/秒）の設定	39
言語	18言語	39
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	120
センサークリーニング	自動クリーニング／今すぐクリーニング／手作業でクリーニング	125
ライブビュー機能設定	［**ライブビュー撮影**］しない／する ［**グリッド**］表示しない／表示する ［**静音撮影**］モード1／モード2／しない ［**測光タイマー**］4秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	106 110 111 107
ストロボ制御	ストロボの発光／内蔵ストロボ機能設定／外部ストロボ機能設定／外部ストロボカスタム機能設定／外部ストロボカスタム機能一括解除	101

機能設定 3（黄）

		参照頁
カメラユーザー設定	モードダイヤルの〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉に現在のカメラ設定を登録	163
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態にする	42
ファームウェア	ファームウェア変更時に選択	−

カスタム機能（橙）

C.Fn I　：露出	カメラの機能を細かく設定する	152
C.Fn II　：画像		154
C.Fn III：AF・ドライブ		155
C.Fn IV：操作・その他		158
カスタム機能（C.Fn）一括解除	カスタム機能をすべて解除	150

マイメニュー（緑）

マイメニューの設定	よく使うメニュー機能やカスタム機能を登録	162

- ［撮影2］、［機能設定3］、［カスタム機能］、［マイメニュー］の画面（タブ）は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。
- □の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。
- かんたん撮影ゾーンでは、記録画質RAW、sRAW、RAW/sRAW+JPEGは表示されません。
- 〈JUMP〉ボタンを押すとタブが切り換わります。このとき、タブの先頭項目が選ばれます。
- メニュー画面を表示している状態でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明します。
- 頻繁に変更するメニュー項目を、マイメニュー［］に登録することができます。（p.162）

使い始める前の準備

MENU 表示言語を設定する



1 ［言語］を選ぶ

- ［ƴ］タブの上から3番目の項目（言語）を選び、〈SET〉を押します。



2 言語を設定する

- 〈◎〉を回して言語を選び、〈SET〉を押します。

➡ 表示言語が切り換わります。

MENU 日付／時刻を確認する

日付と時刻を確認し、あっていないときは、次の手順で設定します。



1 ［日付/時刻］を選ぶ

- ［ƴ］タブの［**日付/時刻**］を選び、〈SET〉を押します。



2 日付/時刻／日付表示順序を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選びます。
- 〈SET〉を押して、⇕ の状態にします。
- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。（□ の状態に戻ります）

3 設定を終了する

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 日付/時刻が設定され、メニューに戻ります。

> 撮影した画像には、日付/時刻が一緒に記録されますので、正しく設定してください。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

電源が自動的に切れるまでの時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、[切] に設定します。電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと、電源が入ります。



1 [オートパワーオフ] を選ぶ

- [**Y**] タブの [**オートパワーオフ**] を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

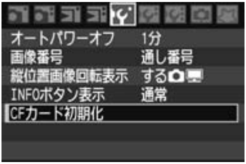
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

[切] に設定しても、節電のため約30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

MENU CFカードを初期化する

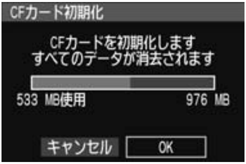
新しく買ったCFカードや、ほかのカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。

CFカードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。



1 [CFカード初期化] を選ぶ

- [**Y**] タブの [**CF カード初期化**] を選び、〈SET〉を押します。



2 ［OK］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

➡ CFカードが初期化されます。

➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

● CFカード内のデータは、初期化や削除を行っても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。カードを譲渡・廃棄するときは、注意してください。

● CFカードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

● 液晶モニターに CF カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。
それでも改善されないときは、別のカードに交換してください。また、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カードを初期化してください。正常な状態に戻ることがあります。

CFカード初期化画面に表示されるCFカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

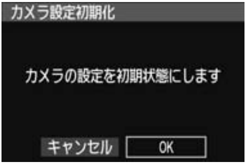
MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。



1 [カメラ設定初期化] を選ぶ

- [**ƒ**] タブの [**カメラ設定初期化**] を選び、〈SET〉を押します。



2 [OK] を選ぶ

- 〈◎〉を回して [**OK**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ [**カメラ設定初期化**] を実行すると、カメラの主な撮影機能は、次の表のようになります。

撮影機能関係

AFモード	ワンショットAF
AFフレームの選択	自動選択
測光モード	◉（評価測光）
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正	0（ゼロ）
AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）

画像関係

記録画質	◢L
ISO感度	Auto
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（オートWB）
WB補正	解除
WBブラケティング	解除
ピクチャースタイル	スタンダード

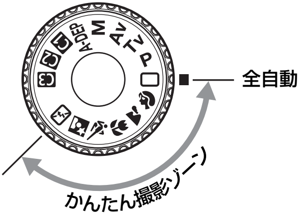
- [**カスタム機能**] と [**カメラユーザー設定**] の内容は初期化されません。
- マニュアルホワイトバランスで取り込んだホワイトバランスデータ（p.66）と、ダスト デリート データ（p.127）は消去されます。

2

かんたん撮影

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法を説明しています。

かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけでカメラまかせの撮影ができるよう、各種機能が自動設定されます。（p.170）また、誤操作による失敗を未然に防ぐため、撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。



かんたん撮影ゾーンの自動画像補正について
かんたん撮影ゾーンでは、撮影結果に応じて好ましい明るさに自動補正する機能が働きます。

□ 全自動で撮る

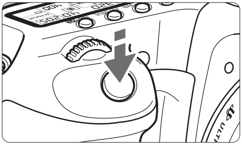
1 モードダイヤルを〈□〉にする

AFフレーム



2 被写体（写したいもの）にAFフレームを合わせる

- すべての AF フレームで被写体をとらえ、基本的に一番近くにあるものにピントを合わせます。
- 中央のAFフレームを被写体に重ね合わせるとピントが合いやすくなります。

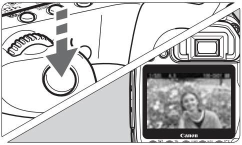




合焦マーク

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピントを合わせます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレームが一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 内蔵ストロボが上がっているときは、手で押し下げて収納します。

? こんなときは

● 合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください。（p.78）また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● 複数のAFフレームが同時に光る

赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも光っているときは、そのまま撮影してください。

● 電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉もつかない）

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。電子音が鳴っている状態でシャッターボタンを全押しすると、動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

● シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっていると、ピント合わせを行いません。〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● ピントを合わせたあとにズーム操作すると、ピントのあまい写真になる

レンズのズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとにズーム操作をすると、ピントがズレることがあります。

● 明るい日中なのにストロボ撮影になった

逆光状態の撮影では、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。

● 暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離は約4mです。

● ストロボが発光したのに暗い写真になった

写したいものから離れすぎています。5m以内を目安に撮影してください。

● ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。1m以上離れて撮影してください。また、レンズ先端に別売のフードが付いているときは、外して撮影してください。

□ 全自動を使いこなす

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランスよく入れたほうが、奥行きのある写真に仕上がります。

〈□〉（全自動）では、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これをフォーカスロック撮影といいます。かんたん撮影ゾーンのほかのモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈🏃〉を除く）。

動いているものを撮影する



〈□〉（全自動）では、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタン半押しを続けるとピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈〉（ポートレート）を使用します。〈〉（全自動）よりも肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。



撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

  人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

- **望遠レンズを使用する**

  ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

- **顔にピントを合わせる**

  ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。

- シャッターボタンを押し続けると、連続撮影して表情やポーズの変化を写し続けます（1秒間に約3枚）。
- 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に発光します。

風景を写す

　広がりのある風景や夜景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈風景〉（風景）を使用します。〈□〉（全自動）よりも空や緑が鮮やかで、とてもクッキリした写真になります。



撮影のポイント

● ズームレンズは広角側にする

　ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、望遠側で撮影するよりも近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● 夜景を撮影するときは

　〈風景〉はストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影します。なお、人物と夜景の両方をきれいに写したいときは、モードダイヤルを〈夜景〉に設定し、カメラを三脚に固定して撮影します。（p.51）



🌷 花や小物を大きく写す

花や趣味の小物などの写真を大きく写したいときは、〈🌷〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものを驚くほど大きく写すことができます。



撮影のポイント

● **すっきりした背景を選ぶ**

背景がすっきりしているほど花や小物が浮き立ちます。

● **写したいものに、できるだけ近づく**

最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈🌷**0.28m/0.9ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの左肩に刻印されている〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

暗い場所ではストロボが発光します。近づきすぎて画面の下側が不自然に暗くなる場合は、少し離れて撮りなおしてください。

● **ズームレンズは望遠側にする**

ズームレンズでは、望遠側にすると大きく写すことができます。

動きのあるものを写す

子どもの走っている姿から自動車レースまで、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈 〉（スポーツ）を使用します。



撮影のポイント

● **望遠レンズを使用する**

遠くからでも撮影できるよう、できるだけ望遠レンズを使用します。

● **中央のAFフレームでピントを合わせる**

ファインダー中央のAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせを開始します。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影（1秒間に最高約6.5枚）して動きの変化を写し続けます。

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようしっかり構えて撮影してください。

夜景と人物を明るく写す

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈 〉（夜景ポートレート）を使用します。



撮影のポイント

- **広角レンズと三脚を使用する**

  ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影します。

- **人物との距離は5m以内**

  暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。人物との距離を5m以内にすると、ストロボ光が届きます。

- **〈□〉（全自動）でも撮影しておく**

  ブレた写真になりやすいので、〈□〉（全自動）でも撮影しておくことをおすすめします。

セルフタイマー併用時は、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

ストロボが使えない場所で写す

美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈 〉（ストロボ発光禁止）を使用します。また、キャンドルライトなど、独特の明かりの雰囲気を効果的に写したいときにも使用します。



撮影のポイント

● **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● **人物も写真に入れるときは**

暗い場所では、撮影が終わるまで写される人が動かないようにします。撮影中に動くと、人物が流れたような写真になります。

3

画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、色空間といった、撮影に関わるデジタルカメラ特有の機能設定について説明します。

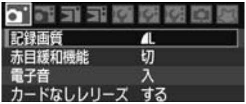
- かんたん撮影ゾーンでは、この章の中の、記録画質（RAW/sRAW、RAW/sRAW+JPEGを除く）の設定、画像番号の付けかたの設定のみが行えます。
- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、A-DEP）限定の機能であることを示しています。

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、画像に関連するカメラの設定内容を確認することができます。（p.166）

MENU 記録画質を設定する

印刷する用紙のサイズや、画像の使用目的に応じて記録画質を設定します。なお、かんたん撮影ゾーンで選ぶことのできる記録画質は、◢L、▟L、◢M、▟M、◢S、▟Sで、JPEGタイプの画像として記録されます。

RAW、SRAW は、撮影後、付属のソフトウェアで現像処理を行います。(p.56)



1 ［記録画質］を選ぶ

- ［📷］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 記録画質設定画面になります。



2 記録画質を設定する

- 〈◎〉を回して記録画質を選び、〈SET〉を押します。
- 画面右上の数字　****×****は記録画素数、[***] は撮影可能枚数（999まで表示）を示しています。
- 記録画質は、かんたん撮影ゾーン、応用撮影ゾーンでそれぞれ設定してください。

記録画質を選ぶときの目安

記録画質		記録画素数	印刷サイズ
◢L （ラージ／ファイン）	JPEG	約1010万	A3以上
▟L （ラージ／ノーマル）			
◢M （ミドル／ファイン）		約530万	A4～A5
▟M （ミドル／ノーマル）			
◢S （スモール／ファイン）		約250万	A5以下
▟S （スモール／ノーマル）			
RAW （ロウ）		約1010万	A3以上
SRAW （スモールロウ）		約250万	A5以下

RAW＋◢L、SRAW＋◢LなどのRAW+JPEG同時記録では、1回の撮影で、RAWとJPEGの画像を同じフォルダに同じ画像番号で保存します。

記録画質に対する1枚のサイズと撮影可能枚数の目安

記録画質	1枚のサイズ（約・MB）	撮影可能枚数（約）	連続撮影可能枚数（約）	
			高速	低速
◢L	3.5	274	75	205
▟L	1.8	523	171	523
◢M	2.1	454	140	454
▟M	1.1	854	303	854
◢S	1.2	779	271	779
▟S	0.7	1451	625	1451
RAW	12.4	76	17	20
RAW+◢L	12.4 + 3.5	59	14	16
RAW+▟L	12.4 + 1.8	66	14	16
RAW+◢M	12.4 + 2.1	65	14	16
RAW+▟M	12.4 + 1.1	70	14	16
RAW+◢S	12.4 + 1.2	69	14	16
RAW+▟S	12.4 + 0.7	72	14	16
SRAW	7.1	135	20	34
SRAW+◢L	7.1 + 3.5	90	17	21
SRAW+▟L	7.1 + 1.8	107	17	22
SRAW+◢M	7.1 + 2.1	103	17	22
SRAW+▟M	7.1 + 1.1	116	17	23
SRAW+◢S	7.1 + 1.2	115	17	24
SRAW+▟S	7.1 + 0.7	124	18	25

- 撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準1GB CFカード使用時の枚数です。
- 1 枚のサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準（ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時）によります。
- 撮影可能枚数は、表示パネルでも確認することができます。
- **被写体やCFカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイルなどの設定により、1枚のサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数が変動します。**
- モノクロ撮影時は、1枚のサイズが小さくなり、撮影可能枚数が多くなります。

RAWについて

CFカードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生データ」です。RAW画像をパソコンに取り込み、付属のソフトウェアで、使用目的に応じたさまざまな画像調整を行うことができます。また、ソフトウェアの現像処理機能により、調整結果を反映した、使用目的に最適なJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

sRAWについて

記録画素数が約1/4（約250万画素）のRAW画像です。RAW画像と同じように、付属のソフトウェアで画像調整、現像処理を行うことができます。通常のRAW画像ほどの高画素を必要としない撮影に向いています。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）について

前ページの「連続撮影可能枚数」は、初期化された1GBのCFカードを使用したときに、連続して何枚撮影できるかを示しています。この数値は、記録画質とドライブモードだけでなく、被写体やCFカードの銘柄などによっても変わりますので、目安としてとらえてください。



ファインダー内右下の数字で、連続撮影できる枚数の目安（99枚以上のときは99）が確認できます。

- 連続撮影可能枚数は、CF カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。
- 連続撮影可能枚数は、ドライブモードの設定に関係なく、〈□H〉の枚数が表示されます。

連続撮影可能枚数が、ファインダー内で「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていきます。撮影を中断すると、数値が増えていきます。撮影した画像がすべてCFカードに書き込まれると、前ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

ISO: ISO感度を設定する 応用

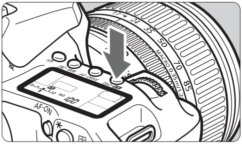
ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影する場所の明るさに応じて設定します。例えば、暗い場所でISO感度を上げる（数値を大きくする）と、手ブレしにくいシャッター速度で撮影することができます。また、ストロボ撮影の距離を伸ばすことができます。

かんたん撮影ゾーンでのISO感度

撮影状況に応じて、ISO100～800の間で、ISO感度が自動設定されます。

応用撮影ゾーンでのISO感度

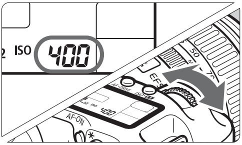
ISO感度を100～1600まで、1/3段ステップで設定することができます。また、明るさに応じてISO感度を自動的に変える「**Auto**」も選ぶことができます。



1 〈ISO・⊠〉ボタンを押す（⏱6）

➡ 表示パネルに現在設定されている感度が表示されます。

● かんたん撮影ゾーンのときは、表示パネルに「**Auto**」と表示されます。



2 ISO感度を設定する

● 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈⚙〉を回します。

●「**Auto**」を選ぶとISO感度が自動設定されます。

● ISO感度を高くしたり、高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや高くなることがあります。
● 高温・高ISO感度・長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。

［**C.Fn I**］の3［**ISO感度拡張**］を［**1:する**］に設定すると（p.152）、「**H**」（ISO3200相当）も選択できるようになります。

ISO感度の自動設定「Auto」について

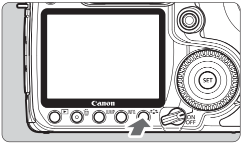
ISO感度の設定が「**Auto**」のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が表示されます。ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

撮影モード	ISO感度設定
、 、 、 、	明るさに応じてISO100〜800の範囲でISO感度が自動設定されます。 なお、自動設定されるISO感度は、撮影モードによって異なることがありますが、撮影は標準露出で行われます。
	明るさに応じてISO400〜800の範囲でISO感度が自動設定されます。
	ISO100固定です。
P **Av** **A-DEP**	明るさに応じて手ブレしにくいシャッター速度になるよう、ISO400〜800の範囲でISO感度が自動設定されます。 なお、ISO400で露出オーバーになる場合は、ISO感度を低くして、最低ISO100の感度が設定されます。
Tv	通常はISO400に設定されます。被写体が明るすぎたり、暗すぎたりして露出オーバー、またはアンダーになる場合は、標準露出になるようISO100〜800の範囲でISO感度が自動設定されます。
M	ISO400固定です。
ストロボ撮影時	〈〉を含むすべての撮影モードでISO400に設定されます。 なお、明るい日中の屋外で露出オーバーになる場合は、ISO感度を低くして、最低ISO100の感度が設定されます。

ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

かんたん撮影ゾーンでは、ピクチャースタイルが自動設定されますので、このページから64ページまでの操作はできません。



1 〈 〉ボタンを押す

- 撮影準備状態で〈 〉ボタンを押します。
- ➡ ピクチャースタイル画面が表示されます。



2 スタイルを選ぶ

- 〈 〉を回してスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

メニュー［ **ピクチャースタイル**］から設定することもできます。

各ピクチャースタイルの画像特性について

- **スタンダード**

  鮮やかで、くっきりした画像になります。

- **ポートレート**

  肌がきれいで、ややくっきりした画像になります。

- **風景**

  青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした画像になります。

- **ニュートラル**

  自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな画像になります。パソコンでの画像処理を前提とした撮影に適しています。

● **忠実設定**

メリハリの少ない控えめな画像になります。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した画像が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。パソコンでの画像処理を前提とした撮影に適しています。

● **モノクロ**

白黒画像になります。

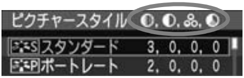
> ● 自然な感じの白黒画像にするためには、適切なホワイトバランスで撮影してください。
> ● RAW、SRAW 以外の記録画質で撮影した画像は、カラー画像に戻すことはできません。カラー画像のつもりで撮影しないように注意してください。なお、［**モノクロ**］設定時は、ファインダー内と表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

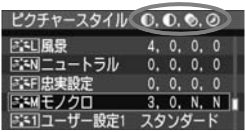
● **ユーザー設定1～3**

63ページの『ピクチャースタイルを登録する』を参照してください。

記号について

スタイル選択画面の右上にある記号は、［**シャープネス**］［**コントラスト**］などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている［**シャープネス**］［**コントラスト**］などの設定値を示しています。





記号の意味

	シャープネス
	コントラスト
	色の濃さ
	色あい
	フィルター効果（モノクロ）
	調色（モノクロ）

ピクチャースタイルを調整する 応用

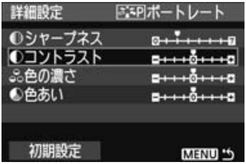
それぞれのピクチャースタイルは、好みに合わせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。［**モノクロ**］の調整については、次ページを参照してください。



1 〈ピクチャースタイル〉ボタンを押す

2 スタイルを選ぶ

● 〈◎〉を回してスタイルを選び、〈INFO.〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

● 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。





4 内容を設定する

● 〈◎〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。

● 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容とその効果

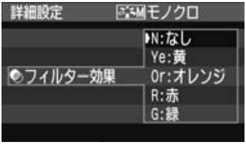
シャープネス	[0] ：輪郭強調・控えめ	[+7]：輪郭強調・強め
コントラスト	[-4]：明暗差・弱	[+4]：明暗差・強
色の濃さ	[-4]：薄い	[+4]：濃い
色あい	[-4]：肌色が赤め	[+4]：肌色が黄色め

- 手順３で［**初期設定**］を選ぶと、各スタイルごとに、設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

［**シャープネス**］と［**コントラスト**］のほかに、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

[フィルター効果]

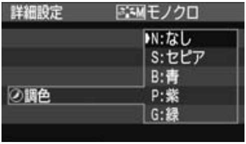


フィルター効果を使うと､同じモノクロ画像でも､白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N ：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R ：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G ：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

[調色]



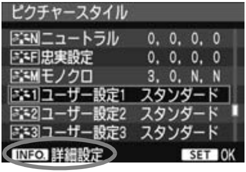
調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

ピクチャースタイルを登録する 応用

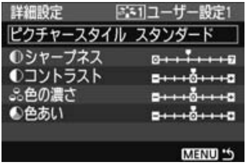
［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みに合わせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。また、付属のソフトウェアから設定したスタイルを選ぶときにも使用します。

1 **〈ピクチャースタイル〉ボタンを押す**



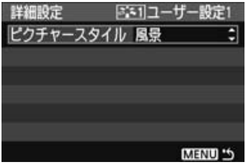
2 **［ユーザー設定］を選ぶ**

● 〈◎〉を回して［**ユーザー設定＊**］を選び、〈INFO.〉ボタンを押します。



3 **〈SET〉を押す**

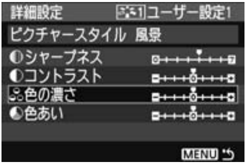
● ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。



4 **基本にするスタイルを選ぶ**

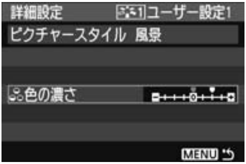
● 〈◎〉を回して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。

● 付属のソフトウェアから設定されたスタイルがあるときは、この操作で選択します。



5 **項目を選ぶ**

● 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。



6 内容を設定する

- 〈◎〉を回して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。



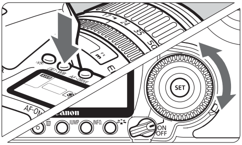
- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ [**ユーザー設定＊**] の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- ➡ [**ユーザー設定＊**] に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

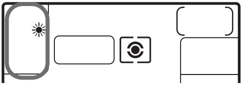
[**ユーザー設定＊**] にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。

登録したスタイルで撮影するときは、前ページの手順2で、[**ユーザー設定＊**] を選択してから撮影します。

WB：ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は白いものを白く写すための機能です。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、手動設定で調整します。かんたん撮影ゾーンでは〈AWB〉に自動設定されます。





1 〈⦿・WB〉ボタンを押す（⏱6）

2 ホワイトバランスを選ぶ

● 表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

表示	モード	色温度（約・K：ケルビン）
AWB	オート	3000～7000
☀	太陽光	5200
🏠	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
💡	白熱電球	3200
蛍光灯	白色蛍光灯	4000
⚡	ストロボ使用	6000
▲■▲	マニュアル（p.66）	2000～10000
K	色温度（p.67）	2500～10000

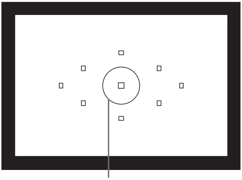
ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラの場合は、ソフトウェア的に色温度を調整して、色の基準となる白を決め、白を基準に色の補正が行われます。これにより、自然な色あいで撮影できます。

メニュー［📷 ホワイトバランス］から設定することもできます。

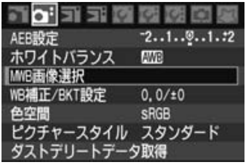
マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。



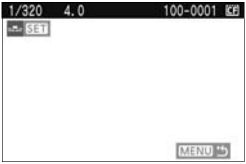
1 白い被写体を撮影する

- スポット測光範囲の領域全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスの設定は、どれでも構いません。



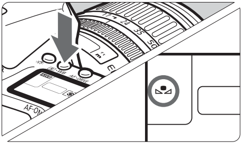
2 [MWB画像選択] を選ぶ

- [撮影2] タブの [**MWB画像選択**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定画面になります。



3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈メイン電子ダイヤル〉または〈サブ電子ダイヤル〉を回して手順 1 で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で [**OK**] を選ぶとデータが取り込まれます。



4 〈測光・WB〉ボタンを押す（6）

- メニューを終了してから、〈測光・WB〉ボタンを押します。

5 マニュアルWBを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈サブ電子ダイヤル〉を回して、〈マニュアルWB〉を選びます。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像（p.60）は、手順3で選択できません。

- 白い被写体の代わりに18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
- 付属のソフトウェアから登録するカスタムホワイトバランスは、〈カスタム〉に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

K 色温度を直接設定する

ホワイトバランスの色温度を数値で設定することができます。

1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［撮影2］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。



2 色温度を設定する

- 〈◎〉を回して［K］を選びます。
- 〈ダイヤル〉を回して色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、2500〜10000K（100Kステップ）です。

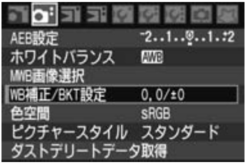
- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてホワイトバランス補正（マゼンタ、またはグリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定する場合は、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

MENU ホワイトバランスを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

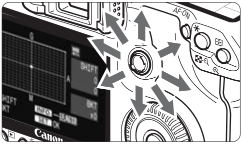
特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解されている方におすすめします。

ホワイトバランス補正

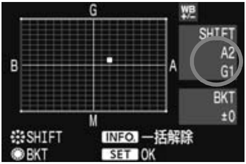


1 ［WB補正/BKT設定］を選ぶ

- ［ ］タブの［WB補正/BKT設定］を選び、〈SET〉を押します。



設定例：A2, G1



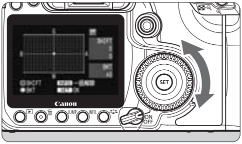
2 ホワイトバランスを補正する

- 〈 〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［WB補正/BKT設定］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

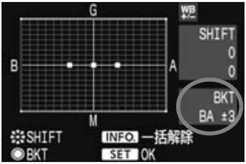
- WB補正中は、ファインダー内と表示パネルに〈WB〉が表示されます。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します。（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表わすときなどに使用される色温度の単位）

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。これをホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ、±3段です。



B/A方向±3段のとき



補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」（3点）に変わります。右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

記録される順番について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなり、撮影可能枚数も約1/3になります。また、表示パネルのホワイトバランスマークが点滅します。
- ホワイトバランス補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影との組み合わせでは、合計9枚の画像が記録されます。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもCFカードへの画像記録時間が長くなります。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU 画像番号の付けかたを設定する

画像番号は、フィルムのコマ番号に相当するもので、撮影した順に0001～9999の画像番号が付いて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付けかたを変えることができます。

画像番号は、パソコンでは IMG_0001.JPG というような形で表示されます。



1 ［画像番号］を選ぶ

- ［ƴ］タブの［**画像番号**］を選び、〈SET〉を押します。

2 番号の設定方式を選ぶ

- 〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

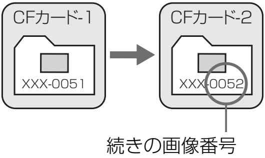
通し番号

CFカードを交換しても連番で保存したいとき

CFカードを交換して撮影しても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号を付けて保存します。複数のCFカードにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換するCFカードにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化されたCFカードをお使いください。

CFカードを交換した場合



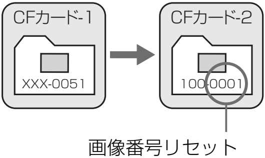
オートリセット

CFカードの交換で、画像番号を0001にしたいとき

CFカードを交換して撮影すると、画像番号0001から順に番号を付けて保存します。CFカード単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換するCFカードにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化されたCFカードをお使いください。

CFカードを交換した場合



強制リセット

新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001の画像から順に保存していきます。前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります。

フォルダ番号999のフォルダが作成されると、液晶モニターに［**フォルダ番号がいっぱいです**］と表示されます。そのフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、CFカードに空き容量があっても撮影できなくなります。液晶モニターにCFカードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいCFカードに交換してください。

画像名は、JPEG画像、RAW/sRAW画像ともに「IMG_ 」になります。拡張子は、JPEG画像が「 .JPG」、RAW/sRAW画像が「 .CR2」になります。

MENU 色空間を設定する 応用

色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影には、sRGBをおすすめします。



1 ［色空間］を選ぶ

- ［ ］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

- ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

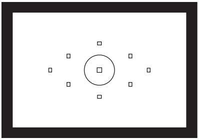
Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、ファイル名の先頭文字がアンダーバー「_」になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

4

AF/ ドライブの設定



ファインダー内には、9つのAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを任意に選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。

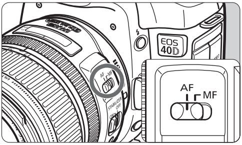
また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、 **A-DEP**）限定の機能であることを示しています。
- かんたん撮影ゾーンでは、AFモード、AFフレーム、ドライブモードが自動設定されます。

〈AF〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈MF〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

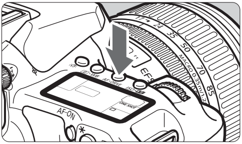
AF：AFモードの選択応用

　撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAFモードが自動設定されます。

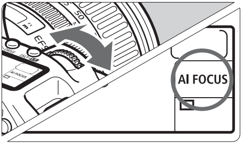


1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする



3 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）



4 AFモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回します。

  ONE SHOT：ワンショットAF
  AI FOCUS：AIフォーカスAF
  AI SERVO：AIサーボAF

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

　止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行った AF フレームが赤く光り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が表示されます。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- 応用撮影ゾーンでは、〈AF-ON〉ボタンでもAFを行うことができます。

- ピントが合わないとファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.78）を参照してください。
- メニュー［撮影 電子音］を［切］に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 応用撮影ゾーンでは、〈AF-ON〉ボタンでもAFを行うことができます。
- AF フレーム選択（p.76）が、自動選択のときは、初めに中央の AF フレームで被写体をとらえます。AFを行っているときに被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームのいずれかで被写体をとらえていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFでは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

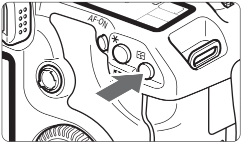
被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へとカメラが作動特性を自動的に切り換えます。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴ります。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

⊞ AFフレームの選択 応用

９点のAFフレームの中から、ピント合わせに使うAFフレームを選びます。なお、かんたん撮影ゾーンと〈A-DEP〉では、AFフレーム自動選択が自動設定されますので、AFフレームの任意選択はできません。



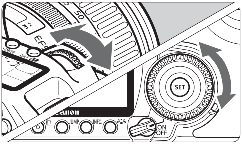
1 〈⊞〉ボタンを押す（⏱6）

➡ 現在選択されている　AF　フレームが、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
- ファインダー内のすべての AF フレームが点灯しているときは、自動選択に設定されています。

2 AFフレームを選択する

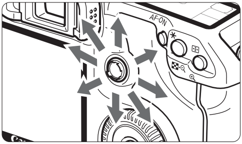
- 〈✲〉、または〈◎〉を回して選択する方法と、〈✥〉を操作して選択する方法があります。

電子ダイヤルによる選択



- 〈✲〉、または〈◎〉を回すと、回した方向に選択AFフレームが移動します。
- すべての AF フレームが点灯すると自動選択になります。

マルチコントローラーによる選択



- 〈✥〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。同じ方向に押すと、任意選択と自動選択が交互に切り換わります。

- 表示パネルを見ながらAFフレームを選択するときは、次の図を参考にしてください。

  自動選択[-:::-]、中央[-]、右[-]、上[ˉ]
- EOS 用外部ストロボ使用時に AF 補助光でピントが合わないときは、中央のAFフレームを選択してください。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 〈風景〉〈スポーツ〉〈ストロボ発光禁止〉では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲は約4mまでです。
- 応用撮影ゾーンでは、〈ストロボ〉ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

使用レンズの明るさとAF測距について

F5.6より明るいレンズ使用時

すべてのAFフレームで十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。

F2.8より明るいレンズ使用時*

中央AFフレームでより高精度な十字測距（縦横線同時検出）を行うことができます。中央AFフレームの縦横線検出は、他のAFフレームの約2倍の敏感度で行われます。

残る8つのAFフレームでは、F5.6より明るいレンズ使用時と同じ十字測距になります。

* EF28-80mm F2.8-4L USM、EF50mm F2.5コンパクトマクロを除く

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

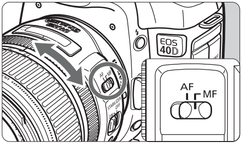
- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  例：青空、単色の平面など
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
  例：反射光の強い車のボディ
- 被写体が遠いところと近いところに共存する状態
  例：おりの中の動物
- 繰り返し模様の被写体
  例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）被写体とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。（p.46）

（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

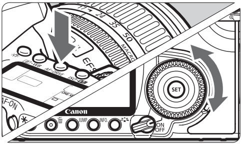
2 ピントを合わせる

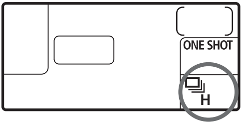
- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択 応用

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なドライブモードが自動設定されます。





1 〈AF・DRIVE〉ボタンを押す（6）

2 ドライブモードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

□ ：**1枚撮影**
シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

□H：**高速連続撮影**（最高約6.5コマ／秒）

□ ：**低速連続撮影**（最高約3コマ／秒）
□H、□ともに、シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続して撮影します。

 ：**セルフタイマー撮影**（10秒後）

2：**セルフタイマー撮影**（2秒後）
セルフタイマー撮影については、次ページを参照してください。

- 連続撮影で内部メモリーがいっぱいになると、表示パネルとファインダー内に「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。CFカードへの記録経過にともない、次の撮影ができるようになりますので、シャッターボタンを半押しして、ファインダー内右下に表示される連続撮影可能枚数で、そのとき撮影できる枚数を確認してください。

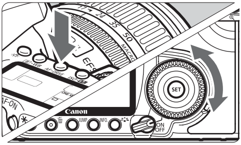


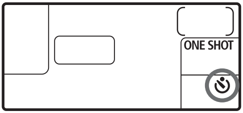
連続撮影可能枚数

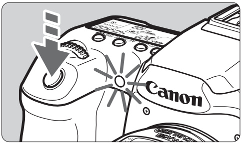
- ファインダー内と表示パネルに「**FuLL CF**」が表示されたときは、必ずアクセスランプの点滅が消えてから、CFカードを交換してください。
- 電池の残量が少なくなると、連続撮影速度が若干低下します。

〈self-timer icon〉 セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。〈self-timer icon〉（10秒タイマー）は、どの撮影モードでも使用できます。







1 **〈AF・DRIVE〉ボタンを押す**（〈timer icon〉6）

2 **〈self-timer icon〉または〈self-timer 2 icon〉を選ぶ**

- 表示パネルを見ながら〈dial icon〉を回して、〈self-timer icon〉または〈self-timer 2 icon〉を選びます。

  〈self-timer icon〉：10秒タイマー
  〈self-timer 2 icon〉：2秒タイマー 応用

3 **撮影する**

- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 設定したタイマーの時間後に撮影されます。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルの秒数減算で作動を確認できます。
- ➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

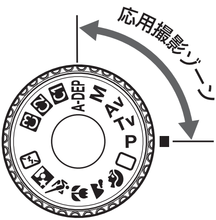
〈caution icon〉 レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

〈note icon〉

- セルフタイマー撮影をするときは、三脚を使用してください。
- セルフタイマー撮影をするときは、ファインダーを見ながら、またはファインダーにアイピースカバーを取り付けて撮影してください。（p.95）
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロック（p.46）して撮影します。
- 2秒タイマーは、近接（マクロ）撮影や、複写撮影時のカメラブレ（シャッターボタンを押したときにカメラがわずかに揺れること）を防ぐときなどに有効です。

5

撮影目的にあわせた応用撮影



応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（**P**、**Tv**、**Av**、**M**、A-DEP）限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、表示パネルとファインダー内に露出値が約4秒間（⏱4）表示されます。
- 応用撮影ゾーンで設定できる機能は、『撮影機能の組み合わせ一覧』（p.170）を参照してください。



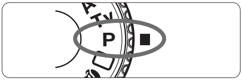
あらかじめ電源スイッチを〈ᒧ〉にしてください。

P: プログラムAE撮影

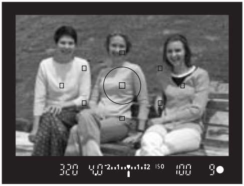
　被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ **AE**は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを〈P〉にする



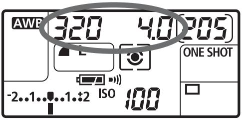
2 ピントを合わせる

● ファインダーをのぞいて、選択した AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

➡ ピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが赤く光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します。（ワンショットAF+AFフレーム自動選択時）

➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。





3 表示を確認する

● シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。





- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈**P**〉と〈□〉（全自動）の違いについて

〈□〉では、失敗を防ぐために、AFモードやドライブモード、内蔵ストロボなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。対して、〈**P**〉では、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AFモードやドライブモード、内蔵ストロボなどの機能は自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- プログラムAEは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈〉を回します。
- プログラムシフトは撮影すると自動的に解除されます。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

Tv：シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

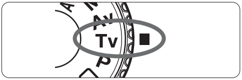
＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



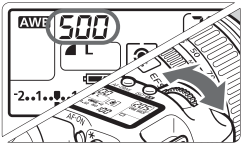
速いシャッター速度



遅いシャッター速度



1 モードダイヤルを〈**Tv**〉にする



2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 絞り数値が自動的に決まります。



4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。



- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。



- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

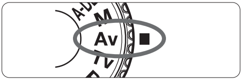
Av：絞り数値を決めて撮る

　絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

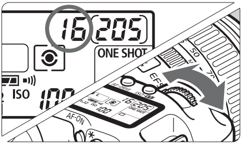
＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略で開口量のことです。


小さい絞り数値


大きい絞り数値



1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら〈〉を回します。

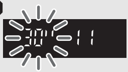
3 ピントを合わせる

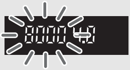
- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。



4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。

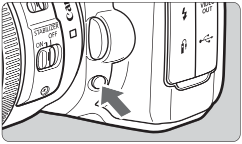




- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さく（絞りを開いて）するか、ISO感度を上げます。
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
シャッター速度の点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きく（絞りを閉じて）するか、ISO感度を下げます

絞り数値の表示
数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される数値は使用するレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する 応用



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値で絞り込みが行われ、被写界深度（ピントの合う範囲）をファインダーで確認できます。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーが暗くなります。
- 被写界深度の効果がわかりにくいときは、絞り込みボタンを押したまま〈〉を回してください。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された（AEロック）状態になります。

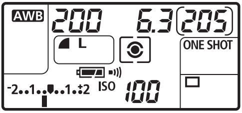
M: 自分で露出を決めて撮る

自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。

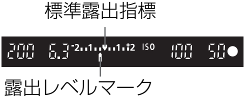


1 モードダイヤルを〈M〉にする



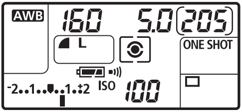
2 シャッター速度、絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈メイン電子ダイヤル〉を回して設定します。
- 絞り数値は、電源スイッチを〈⤴〉にして、〈サブ電子ダイヤル〉を回して設定します。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。



4 露出を決める

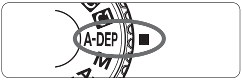
- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。

5 撮影する

A-DEP：近くから遠くまでピントが合った写真を撮る ■

自動的に近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。すべてのAFフレームで被写体を検出し、検出できた範囲（奥行き）にピントが合うよう絞り数値が自動設定されます。

＊〈A-DEP〉は、Auto-Depth of field（オートデプスオブフィールド）の略でピントの合う奥行きを自動設定するという意味です。



1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする



2 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。（⏱4）
- 一瞬赤く光ったAFフレームのすべてにピントが合います。

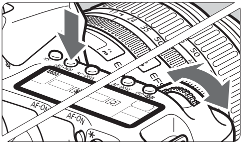
3 撮影する

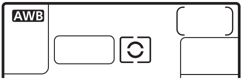
- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げてください。
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

- 絞り数値が点滅するときは、露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。
- 遅いシャッター速度が設定されることがありますので、三脚の使用をおすすめします。
- ストロボを使用したときは、〈**P**〉のストロボ撮影と同じ結果になります。

◉ 測光モードの選択 応用

測光モードには、評価測光、部分測光、スポット測光、中央部重点平均測光の4つがあります。かんたん撮影ゾーンでは評価測光に自動設定されます。

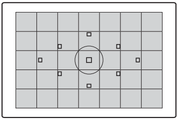




1 〈◉・WB〉ボタンを押す（⏱6）

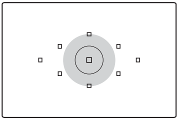
2 測光モードを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回します。
  - ◉：**評価測光**
  - ◎：**部分測光**
  - •：**スポット測光**
  - [ ]：**中央部重点平均測光**



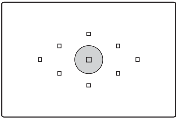
◉ 評価測光

逆光撮影を含む一般的な人物撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。



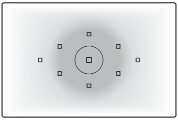
◎ 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約9%の範囲を測光します。



• スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約3.8%を測光します。



[ ] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。露出を明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することができます。補正できる範囲は、1/3段ステップで±2段です。

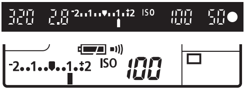
1 モードダイヤルを〈M〉以外の応用撮影ゾーンにする



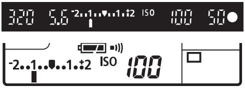
2 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

プラス補正



マイナス補正



3 補正量を設定する

- 電源スイッチを〈↲〉にして、ファインダー内または表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。
- 〈◎〉の操作はシャッターボタン半押し中か、半押し後のタイマー（⏱4）作動中に行います。
- 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈▼〉の位置に戻します。

4 撮影する

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 不用意に〈◎〉が動いて補正量が変わらないように注意してください。電源スイッチを〈ON〉の位置にすると安全です。

MENU 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3 枚の画像を撮影することができます。これをAEB撮影といいます。

＊AEBは、Auto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

1 ［AEB設定］を選ぶ

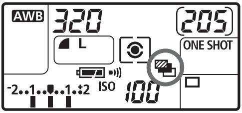
- ［ ］タブの［AEB設定］を選び、〈SET〉を押します。



AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈 〉を回してAEBレベルを設定し、〈SET〉を押します。
- ➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈 〉とAEBレベルが表示されます。



3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

AEB撮影の解除

- 手順1、2の操作でAEBレベルを〈-2..1..0..1.:2〉にします。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了で自動解除されます。

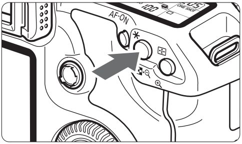
- ドライブモードが〈□〉のときは、シャッターボタンを3回押して撮影します。〈 H〉〈 〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈 〉〈 2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- AEBと露出補正を組み合わせて使用することもできます。
- ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。





2 〈✱〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。



3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果について

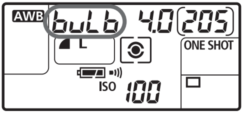
測光モード	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
評価測光*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
部分測光	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	
スポット測光		
中央部重点平均測光		

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉ときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックします。

長時間露光（バルブ）撮影

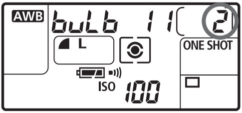
シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1 モードダイヤルを〈M〉にする



2 シャッター速度を「buLb」にする

- 表示パネルを見ながら〈ダイヤル〉を回して「**buLb**」を選びます。
- 「**30"**」の次が「**buLb**」です。

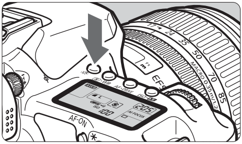


3 絞り数値を設定して撮影する

- 絞り数値は電源スイッチを〈⤴〉にし、〈◎〉を回して設定します。
- シャッターボタンを押している間、露光が行われます。
- ➡ 表示パネルの撮影可能枚数が、露光経過時間（秒）に変わります。

- 長時間露光は撮影画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になることがあります。
- ［C.Fn Ⅱ］の1［**長秒時露光のノイズ低減**］を［1：**自動**］または［2：**する**］に設定すると、長秒時露光時に発生するノイズを軽減することができます。（p.154）
- バルブ撮影には、リモートスイッチRS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラーTC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

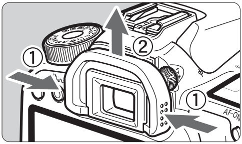
☼ 表示パネルの照明



〈☼〉ボタンを押すたびに、表示パネルの照明が点いたり、消えたりします（⏱6）。バルブ撮影時は、シャッターボタン全押しで照明が消えます。

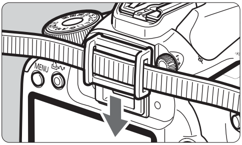
アイピースカバーを併用する

ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバーを使います。



1 アイカップを取り外す

● アイカップの下側を押して取り外します。



2 アイピースカバーを取り付ける

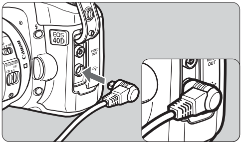
● ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

リモートスイッチの取り付け方

リモートスイッチRS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラーTC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を持つEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます。

なお、アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。

1 端子カバーを開ける



2 リモコン端子にプラグを取り付ける

● 図のように取り付けます。

● 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

ミラーアップ撮影 応用

セルフタイマー撮影や、リモートスイッチを使用した撮影でも、カメラブレ防止に十分な効果がありますが、超望遠レンズを使用した撮影や、近接（マクロ）撮影で、撮影時の機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。

［C.Fn III］の7［ミラーアップ撮影］を［1：する］に設定すると（p.158）**、ミラーアップ撮影ができます。**

1 ピントを合わせてシャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

2 再度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷するおそれがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。タイマー作動中の2秒/10秒の間に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- ［1：する］設定時に、ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1 枚撮影になります。
- セルフタイマー〈〉または〈2〉を使用すると、10 秒後、または 2 秒後に撮影されます。
- ミラーアップしてから撮影を行わず、30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。
- ミラーアップ撮影には、リモートスイッチ RS-80N3（別売）やタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします。

内蔵ストロボを使った撮影

E-TTL II 自動調光制御により、高精度で安定したストロボ撮影ができます。

かんたん撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

暗いときや日中逆光時に、**内蔵ストロボが自動的に上がって発光**します。(〈風景〉〈スポーツ〉〈ストロボ発光禁止〉を除く)

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

明るさに関係なく**必要なときに〈ストロボ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げるだけ**でストロボ撮影ができます。内蔵ストロボは、手で押し下げて収納します。

P　：**カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。**シャッター速度（1/60～1/250秒）と絞り数値は、自動的に決まります。

Tv　：**任意のシャッター速度（30秒～1/250秒）を設定したいときに選択します。**自動設定された絞り数値に対し、自動調光が行われます。

Av　：**任意の絞り数値を設定したいときに選択します。**設定した絞り数値に対し、自動調光が行われます。**シャッター速度は、その場の明るさに応じて、30秒～1/250秒の範囲で自動設定されます。**

暗いところでは、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真（自動スローシンクロ撮影）になります。

- シャッター速度が遅くなったときは、三脚の使用をおすすめします。
- シャッター速度を遅くしたくないときは、［C.Fn I］の7［**Avモード時のストロボ同調速度**］を［**1：1/250秒固定**］に設定します。(p.153)

M　：**シャッター速度（バルブ、30秒～1/250秒）と絞り数値を任意に設定したいときに選択します。**設定した絞り数値に対し、自動調光が行われます。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

A-DEP　：〈**P**〉と同じストロボ撮影結果になります。

内蔵ストロボの届く距離

[約・m]

ISO感度	EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS		EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM	
	広角：18mm	望遠：55mm	広角：17mm	望遠：85mm
100	1～3.7	1～2.3	1～3.3	1～2.3
200	1～5.3	1～3.3	1～4.6	1～3.3
400	1～7.4	1～4.6	1～6.5	1～4.6
800	1～10.5	1～6.6	1～9.2	1～6.6
1600	1～14.9	1～9.3	1～13.0	1～9.3
H：3200	1～21.0	1～13.1	1～18.4	1～13.1

レンズのフードを外し、被写体から1m以上離れてください。レンズ先端にフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、ストロボの光がさえぎられて、画面の下側が暗くなることがあります。なお、望遠レンズや大口径レンズを使用していて現象が改善されない場合は、EXシリーズスピードライト（別売）の使用をおすすめします。

MENU 赤目緩和機能を使う

ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。〈風景〉〈発光禁止〉〈スポーツ〉以外の撮影モードで機能します。

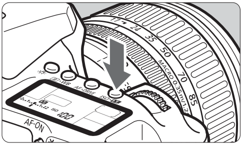


- [📷] タブの [**赤目緩和機能**] を選んで〈SET〉を押し、[**入**] を選んで〈SET〉を押します。
- ストロボが発光するときは、シャッターボタン半押しで赤目緩和ランプが点灯し、全押しすると撮影されます。

- 赤目緩和は、「写される人がランプを注視する」、「室内を明るくする」、「近づいて撮影する」を行うと効果的です。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー下の表示が内側に向かって消灯していきます。この表示が消えてから撮影すると効果的です。
- 赤目緩和効果の度合いには、個人差があります。

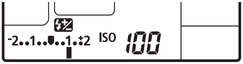
⚡± ストロボ調光補正 応用

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量をカメラで補正することができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±2段です。



1 〈ISO・⚡±〉ボタンを押す（☝6）

プラス補正



マイナス補正





2 補正量を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら、〈◎〉を回します。
- ストロボ調光補正を解除するときは、補正量の設定を〈▼〉の位置に戻します。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに〈⚡±〉が表示されます。

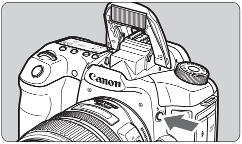
3 撮影する

カメラ側とEXシリーズスピードライト側でともに調光補正を行ったときは、スピードライト側の設定が優先されます。EXシリーズスピードライト側で調光補正が行われていると、カメラ側で調光補正を行っても、カメラで設定した内容は撮影結果に反映されません。

- 設定した補正量は電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- EXシリーズスピードライト使用時も同じ操作で、カメラからスピードライトの調光補正ができます。
- メニューからも設定できます。（p.101）

✱ FEロック撮影 応用

FE（Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

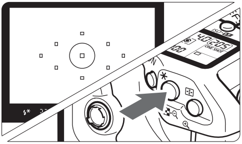




1 〈⚡〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げる

- シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈⚡〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる





3 〈✱〉ボタンを押す（☞16）

- ファインダーの中央に被写体をおいて、〈✱〉ボタンを押します。
- ⇒ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。
- ⇒ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈⚡✱〉が点灯します。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。



4 撮影する

- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。
- ⇒ ストロボが発光し、撮影されます。

> 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは〈⚡〉が点滅します。被写体に近づいて再度手順2〜4の操作をします。

MENU ストロボ制御 応用

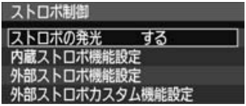
内蔵ストロボと外部ストロボに対する設定を、メニュー画面からも行うことができます。なお、外部ストロボに関するメニューは、**カメラからの外部ストロボ機能設定に対応したEXシリーズスピードライト装着時**にのみ有効となります。



［ストロボ制御］を選ぶ

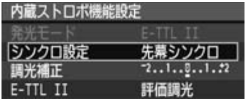
- ［ ］タブの［**ストロボ制御**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ストロボ制御画面になります。

［ストロボの発光］について



- 通常は、［**する**］を選びます。
- ［**しない**］を選ぶと、内蔵／外部ストロボとも発光しません。ストロボのAF補助光だけを使いたいときに選びます。

［内蔵ストロボ機能設定］について



- ［**発光モード**］は選択できません。
- ［**調光補正**］は、99ページと同じ設定ができます。
- ［**E-TTL II**］は、次ページの説明を参考にして設定してください。

● シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、撮影終了直前にストロボが発光します。スローシンクロと組み合わせると、車のライトなどの軌跡が自然な感じで写ります。なお、後幕シンクロでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回ストロボが発光します。

● E-TTL II

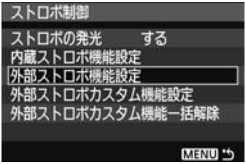
通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。

［**平均調光**］に設定すると、外部調光ストロボのように測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要な上級者向けの設定です。

外部ストロボの設定について

［**外部ストロボ機能設定**］と［**外部ストロボカスタム機能設定**］の設定を行います。設定内容については、**カメラからの外部ストロボ機能設定に対応したEXシリーズスピードライト**（例：580EX II）の使用説明書を参照してください。

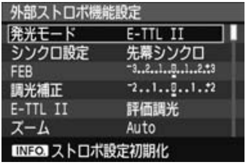
ストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。



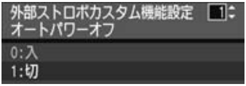
1 ［外部ストロボ機能設定］または［外部ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 設定できない項目は、暗く表示されます。

外部ストロボ機能設定



外部ストロボカスタム機能設定



2 外部ストロボの機能を設定する

- 項目を選び、機能を設定します。操作方法は、カメラのメニュー機能の設定と同じです。
- ストロボ機能設定画面で表示される内容や、設定できる項目は、設定されている発光モードや、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。
- 〈INFO.〉ボタンを押してストロボ設定を初期化すると、外部ストロボと内蔵ストロボの設定が初期化されます。

外部ストロボの使用について

EOS用EXシリーズスピードライト

基本操作は内蔵ストロボ撮影同様、簡単です。

EXシリーズスピードライトをこのカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動調光制御のほぼすべては、このカメラによって行われます。つまり、「内蔵ストロボの代わりに大光量ストロボが外付けされたもの」とお考えください。操作方法については、EXシリーズスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXシリーズスピードライトの全機能が使用できるAタイプカメラに属しています。

クリップオンタイプストロボ



マクロストロボ



EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

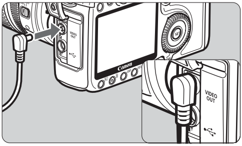
- **EZ/E/EG/ML/TL スピードライトを、TTL またはA-TTL 自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**カメラの撮影モードをマニュアル露出、または絞り優先AE に設定し、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を持つスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。
- EX スピードライト使用時に、ストロボのカスタム機能で、調光方式をTTL 自動調光にしているときにも、常時フル発光となります。

汎用ストロボを使った撮影

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/250秒以下、スタジオ用の大型ストロボは1/60秒以下のシャッター速度で同調します。あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから使用してください。

シンクロ端子について



- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。端子には、コードの抜け落ちを防止するロックねじが付いています。
- シンクロ端子には極性はありません。シンクロコードの極性に関係なく、そのまま使用することができます。

ライブビュー撮影時の注意

汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行う場合は、［**ライブビュー機能設定**］の［**静音撮影**］を［**しない**］設定にしてください。（p.111）［**モード1**］、［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。

- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となります。
- シンクロ端子に 250V 以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

6

ライブビュー撮影

カメラの液晶モニターや、パソコンの画面に表示されるリアルタイム映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

- ライブビュー撮影を行うときは、（マイクロドライブなどの）**ハードディスクタイプのCFカードの使用はおすすめできません。**
- 直射日光下など暑い場所でライブビュー撮影を行うと、〈〉マーク（カメラ内部の温度上昇に関する注意）が画面に表示されることがあります。そのままライブビュー撮影を継続すると、撮影画像の画質が低下するおそれがありますので、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 〈〉マークが表示された状態で、ライブビュー撮影を継続し、さらにカメラ内部の温度が上昇すると、ライブビュー撮影が自動的に終了します。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなります。

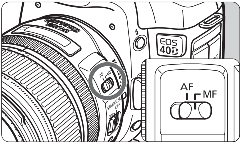
リモートライブビュー撮影について

付属ソフトウェアがインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

ライブビュー撮影 応用

ファインダーの代わりに、カメラの液晶モニターに表示されたリアルタイム映像を見ながら撮影することができます。なお、ライブビュー撮影は、かんたん撮影ゾーンでは行うことができません。

ライブビュー撮影の準備



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

2 撮影モードを設定する

- 応用撮影ゾーンの撮影モードを設定します。





3 ［ライブビュー機能設定］を選ぶ

- ［ƒY:］タブの［**ライブビュー機能設定**］を選び、〈SET〉を押します。

4 ［ライブビュー撮影］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**ライブビュー撮影**］を選び、〈SET〉を押します。

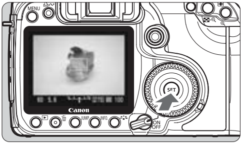
5 ［する］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**する**］を選び、〈SET〉を押します。

ライブビュー撮影時は、レンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でカメラの内部が損傷するおそれがあります。

- コンパクトデジタルカメラのように、カメラを手で持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。ライブビュー撮影を行うときは、**三脚の使用をおすすめします**。
- 〈A-DEP〉は、〈P〉と同じ撮影結果になります。

液晶モニターに映像を表示する



撮影準備状態で〈SET〉を押す

➡ 液晶モニターにリアルタイム映像が、視野率約100%で表示されます。
- 付属のビデオケーブルを使用して、テレビに映像を表示することもできます。（p.120）

ライブビュー表示中に、カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。そのときは、適切な明るさで安定して表示されるようになってから撮影してください。
明るさが安定しない状態で撮影すると、露出設定のとおりに撮影されない（露出アンダー /オーバーになる）ことがあります。

表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、〈SET〉を押していったん撮影を終了し、（撮影する光源下で）もう一度〈SET〉を押して撮影を再開してください。

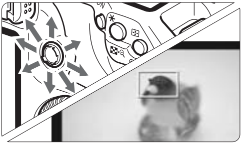
撮影機能を設定する

通常のファインダー撮影時と同じように、撮影機能（ドライブモード、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、露出補正、AEロック、ストロボ調光補正など）の設定を行うことができます。

なお、ライブビュー表示中に撮影モードを変えると、ライブビュー表示が終わります。

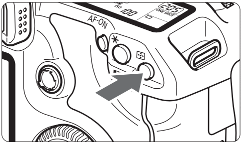
- 測光モードは変更できません。撮像素子を使用した（フォーカスフレーム連動の）評価測光になります。
- 連続撮影を行うこともできます。
- ［**ライブビュー機能設定**］の［**測光タイマー**］で、露出値の保持時間を変更することができます。
- 超望遠レンズに搭載されている、フォーカスプリセット機能は使用できません。

拡大して手動でピントを合わせる



1 ピントを合わせたい位置にフォーカスフレームを移動する

● 全画面表示の状態で、〈◈〉を操作してフォーカスフレームを移動します。〈◈〉をまっすぐ押すと、画面中央に戻ります。

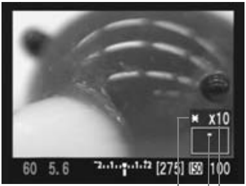


2 〈⊕〉ボタンを押す

➡ フォーカスフレーム内が拡大されます。
➡ 全画面表示のときの露出がAEロックされ、シャッター速度と絞り数値がオレンジ色で表示されます。
● 〈⊕〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→ 全画面表示 → 約5倍 → 約10倍 ─

拡大率：約10倍



AEロック
拡大表示位置
拡大率

3 手動でピントを合わせる

● 液晶モニターに表示されている映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回して、**手動でピントを合わせます**。

● 高温・高ISO感度・長時間露光の条件でライブビュー撮影を行うと、画像にノイズや色ムラが発生することがあります。
● 連続撮影時は、1枚目を撮影したときの露出で2枚目以降が撮影されます。連続撮影中に構図を変更すると、露出が合わないおそれがあります。
● カメラを操作しない状態が続くと、メニュー［**ƒ オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます。（p.40）

● 拡大表示中に〈✱〉ボタンを押しても、露出の更新は行われません。
● 5倍、10倍拡大時は、手動でピントが合わせやすいように、映像のシャープネスが、実際の設定よりも強くかかった状態で表示されることがあります。

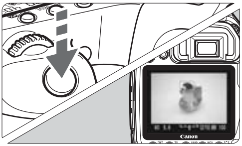
撮影する



1 構図を確認する

● 〈⊕〉ボタンを押して、全画面表示の状態で構図を確認します。

2 表示を確認する



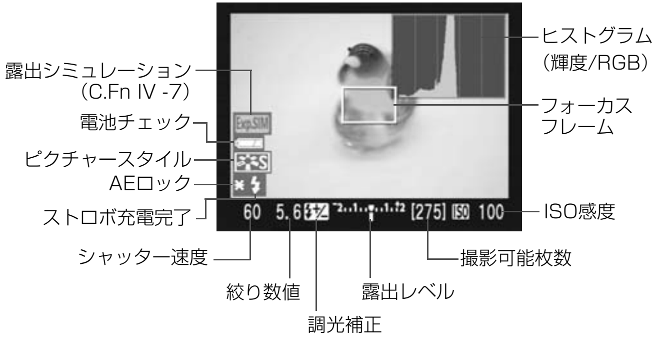
3 撮影する

● シャッターボタンを全押しします。
➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
● 撮影を終了するときは、映像が表示された状態で〈SET〉を押します。

● 絞り込みボタンを押すと、露出と被写界深度（ピントの合う奥行き）を確認することができます。
● ストロボ撮影を行うこともできます。ただし、FE ロック、モデリング発光、テスト発光はできません。また、ストロボ側でストロボのカスタム機能を設定することはできません。
● 580EX II 使用時は、ワイヤレス設定の切り換えはできません。
● 低輝度、高輝度条件下では、映像が適切な明るさで表示されないことがあります。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。
● 太陽など極端に明るい光源が画面内にあるときは、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影を行うと、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
● ストロボ撮影では、シャッターが2回切れた音がしますが、撮影枚数は1枚です。

情報表示について

● 〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに、情報表示内容が切り換わります。



● ［ライブビュー機能設定］の［グリッド］を［表示する］に設定すると、格子線が表示され、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。

● ［C.Fn IV］の7［ライブビュー露出シミュレーション］を［1：する（撮影露出イメージ表示）］に設定すると、露出設定に応じた明るさで表示され、撮影前に露出のイメージを把握することができます。（p.161）

● ヒストグラム（p.116）は、C.Fn IV -7-1設定時のみ表示されます。ただし、ストロボ使用時、バルブ設定時は、ヒストグラムがグレーで表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

● ライブビュー撮影時に〈〉マーク（温度上昇に関する注意）が画面に表示されたときは、105ページを参照してください。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	約170枚	約130枚

・上記撮影可能枚数は、フル充電のBP-511A使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

静音撮影について

［ꟾ꟣ ライブビュー機能設定］の［**静音撮影**］は、下記の説明を参考にして設定します。

● モード1

ライブビュー撮影を行わないときよりも作動音が静かになります。連続撮影を行うこともできます。なお、高速連続撮影は、約6コマ/秒になります。

● モード2

シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻すとカメラが作動しますので、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影にしていても1枚撮影になります。

● しない

TS-Eレンズを使用して**上下方向のシフト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ずこの設定にしてください。［**モード1**］、［**モード2**］に設定すると、適正露出にならなかったり、露出ムラになったりします。

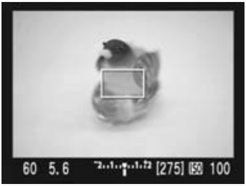
シャッターボタンを全押しすると、シャッターが2回切れた音がして撮影されます（撮影枚数は1枚です）。

- ストロボ撮影の場合は、［**モード1**］、［**モード2**］に設定していても、［**しない**］と同じ動きになります。
- 汎用ストロボを使用する場合は、［**しない**］を設定してください。［**モード1**］、［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。（p.104）

AFでピントを合わせる

[C.Fn III] の6 [ライブビュー撮影中のAF] を [する] に設定すると、〈AF-ON〉ボタンでピント合わせが行えるようになります。

あらかじめ、レンズのフォーカスモードスイッチは〈AF〉、AFモードは〈ONE SHOT〉、AFフレームは中央AFフレームに設定しておきます。



1 〈SET〉を押してライブビュー表示にする

2 ピントを合わせる

- 被写体をフォーカスフレームの中心において、〈AF-ON〉ボタンを押します。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます。
- ➡ ピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴ります。

3 ライブビュー表示に戻して撮影する

- 〈AF-ON〉ボタンを離すとライブビュー映像が表示されます。
- ピントを確認し、シャッターボタンを押して撮影します。

- 厳密にピント合わせをするときは、カメラを三脚に固定し、画像を拡大して手動ピント合わせしてください。(p.108)
- AIサーボAFやAFフレーム自動選択／任意選択も行うことができますが、AFフレームが被写体にかからないと意図したとおりのピントにならないことがあります。

- AF中は撮影できません。ライブビュー映像を表示させた状態で撮影してください。
- 露出は、フォーカスフレーム連動の評価測光で決まります（AFフレーム連動ではありません）。

7

画像の再生

撮影した画像をカメラで再生・消去する方法や、画像をテレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像について

このカメラ以外で撮影された画像や、このカメラで撮影した後にパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

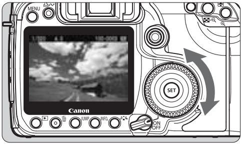
▶ 画像を再生する

1枚表示



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

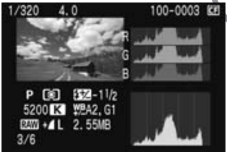
- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が切り換わります。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



1枚表示



1枚表示＋記録画質



ヒストグラム表示

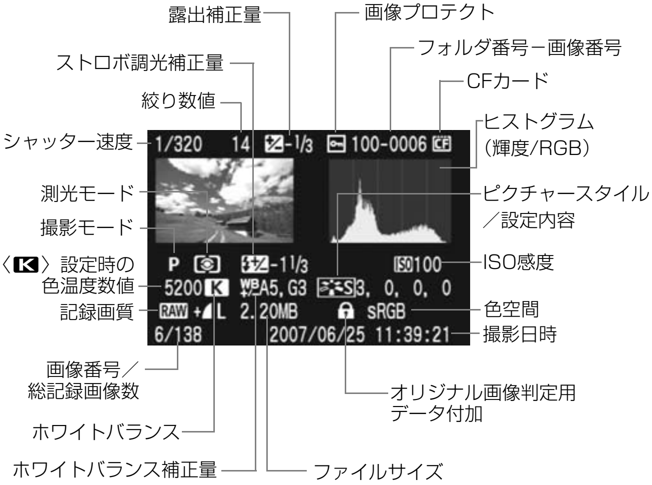


撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

撮影情報の内容



● **ハイライト警告表示ついて**

メニュー［▶̇ **ハイライト警告表示**］を［**する**］に設定すると、露出オーバーで白飛びした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● **AFフレーム表示ついて**

メニュー［▶̇ **AFフレーム表示**］を［**する**］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数同時に表示されることがあります。

● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、メニュー［**▶: ヒストグラム**］で行います。

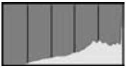
［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。そのほかの成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例


暗い成分が多い

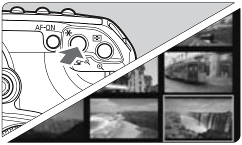

普通の明るさ

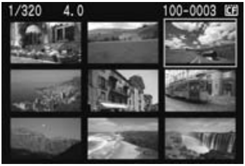

明るい成分が多い

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

インデックス表示





1 インデックス表示にする

- 画像を再生した状態で、〈■·Q〉ボタンを押します。
- ➡ 4枚インデックス表示になります。選択されている画像に青色の枠が付きます。
- もう一度〈■·Q〉ボタンを押すと、9枚インデックス表示になります。

2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回すと青色の枠が移動します。
- 1 枚表示にするときは、〈⊕〉ボタンを押します。

ジャンプ表示

再生中の画像を飛ばして表示することができます。

画像送りの設定

画像再生中に〈JUMP〉ボタンを押して〈◎〉を回し、［**1枚/10枚/100枚/1画面/撮影日**］の中から、希望するジャンプ方法を選びます。

インデックス表示のときに画面単位でジャンプしたいときは、［**1画面**］を選びます。撮影した日の日付単位でジャンプしたいときは［**撮影日**］を選びます。



ジャンプ方法
再生位置

- 画像を再生した状態で〈◎〉を回します。
- ➡ 設定した方法でジャンプ表示が行われます。
- ➡ 画面右下にジャンプ方法と、現在再生している画像の位置が表示されます。

⊕/⊖ 拡大表示



拡大表示位置

画像を拡大する

- 画像を再生し、〈⊕〉ボタンを押すと拡大表示します。
- 〈⊕〉ボタンを押し続けると、最大 10 倍まで拡大します。
- 〈▦·⊖〉ボタンを押すと縮小表示になります。
- 〈✣〉を操作すると表示位置が移動します。

- 〈◎〉、または〈○〉を回すと画像が切り換わります。
- 撮影直後の画像表示中からの拡大表示はできません。

⟲ 画像回転



1 [画像回転] を選ぶ

- [▶˙] タブの [**画像回転**] を選び、〈SET〉を押します。



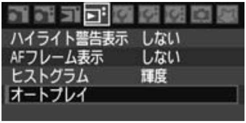
2 画像を選んで回転させる

- 〈◎〉、または〈○〉で回転する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈SET〉を押すたびに画像が回転します。
- この操作を繰り返してほかの画像を回転することもできます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、終了してメニューに戻ります。

回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、メニュー [**ƒ˙ 縦位置画像回転表示**] を [**する ◘ ▭**] に設定します。

MENU 自動再生

CFカードに記録されている画像を自動的に連続再生します。画像1枚の表示時間は約4秒です。



1 ［オートプレイ］を選ぶ

- ［▶:］タブの［**オートプレイ**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ オートプレイ画面になります。





2 自動再生する

- ➡ ［**画像読み込み中...**］が数秒間表示されたあと、自動再生が始まります。
- 自動再生を一時停止したいときは、〈SET〉を押します。
- 一時停止中は画像の左上に［II］が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、自動再生を再開します。

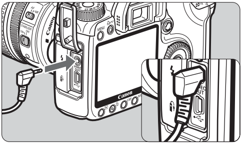
3 自動再生を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、自動再生が終了しメニューに戻ります。

- 一時停止中に〈◎〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフは機能しません。
- 画像により、表示時間が異なる場合があります。

画像をテレビで見る

付属のビデオケーブルを使用すると、撮影した画像をテレビなどで見ることができます。接続するときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

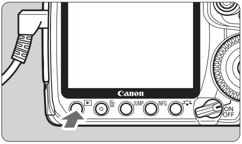


1 カメラをテレビに接続する

- カメラの端子カバーを開きます。
- カメラの〈VIDEO OUT〉ビデオ出力端子と、テレビのビデオ入力端子を付属のビデオケーブルで接続します。
- ケーブルのプラグを根元までしっかりと差し込みます。

2 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをビデオ入力にする

3 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



4 〈[▶]〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- 見終わったら、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にして、テレビの電源を切ってから、ビデオケーブルを取り外します。

- テレビ方式と異なるビデオ出力方式を設定すると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー［**ビデオ出力方式**］で方式を切り換えてください。
- 付属のビデオケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。

使用するテレビ（モニター）により、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

MENU 撮影画像を保護（プロテクト）する

大切な画像を誤って消さないように、プロテクトをかける（保護する）ことができます。



1 [画像プロテクト] を選ぶ

- [▶̇] タブの [**画像プロテクト**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクト画面になります。

プロテクト表示



2 プロテクトをかける

- 〈◎〉を回してプロテクトをかける画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ プロテクトが設定されると、画面の上に〈⊶〉が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- ほかにプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了しメニューに戻ります。

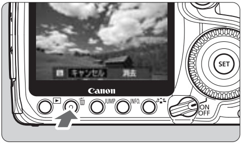
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.122）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

🗑 画像を消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.121）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚ずつ消去



1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

- 画面の下に消去メニューが表示されます。



3 消去する

➡ ［**消去**］を選び〈SET〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

MENU チェック〈√〉を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することもできます。メニュー［**▶ 画像消去**］で［**選択して消去**］を選びます。〈SET〉で消去したい画像に〈√〉を付けたあと、〈🗑〉ボタンを押します。

MENU カード内全画像消去

メニュー［**▶ 画像消去**］で［**カード内・全画像**］を選ぶと、CFカード内のすべての画像が消去されます。

画像再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。



1 [液晶の明るさ] を選ぶ

● [ﾄ¥] タブの [**液晶の明るさ**] を選び、〈SET〉を押します。



2 明るさを調整する

● グレーチャートを参考にして、〈◎〉を回して調整し、〈SET〉を押します。

撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.116）で確認することをおすすめします。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。



1 [撮影画像の確認時間] を選ぶ

● [◘'] タブの [**撮影画像の確認時間**] を選び、〈SET〉を押します。

2 時間を設定する

● 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

[**ホールド**] に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで表示されます。

MENU 縦位置撮影画像の回転表示について設定する



縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときや、パソコンの画面で見るときに、被写体が横向きで表示されないように、自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。

1 ［縦位置画像回転表示］を選ぶ

- ［**Ý**］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。



2 回転表示を設定する

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

  ［**する**］
  カメラで再生するときと、パソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき

  ［**する**］
  パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき

  ［**しない**］
  自動回転させたくないとき

［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示されません。

- 撮影直後に表示される画像は自動回転表示されません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、正しく自動回転表示されないことがあります。
- パソコン画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。付属ソフトウェアの使用をおすすめします。

8

撮像素子の清掃

　このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットを搭載しています。

　また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、付属のソフトウェア（Digital Photo Professional）で、自動的に消去することができます。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- レンズを外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける。
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける。

セルフ クリーニング センサー ユニットの作動中でも、シャッターボタンを半押しすると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。

MENU 撮像素子の自動清掃

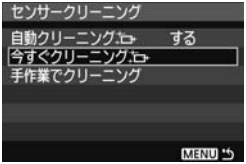
このカメラは、電源スイッチを〈ON/⤴〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが作動するようになっています（所要時間約1秒）。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する



1 ［センサークリーニング］を選ぶ

- ［Ƴ:］タブの［センサークリーニング］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［今すぐクリーニング］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［今すぐクリーニング］を選び、〈(SET)〉を押します。
- メッセージ画面で［OK］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます。途中、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

- 任意作動による清掃所要時間は、約2.5秒です。
- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを垂直に置いて清掃してください。
- 何度も繰り返して清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、［今すぐクリーニング］が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

- 手順2で［自動クリーニング］を選び、［しない］を選びます。
- ➡ 電源スイッチを〈ON/⤴〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

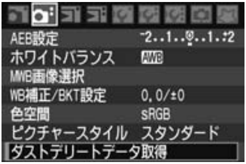
MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

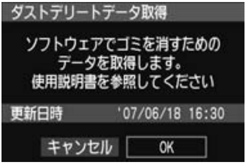
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回します。

ダストデリートデータを取得する



1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

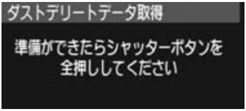
- ［撮影2］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。

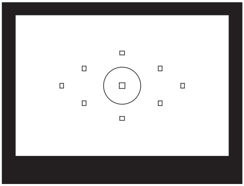




2 ［OK］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。





3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20 ～ 30cm の距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、CF カードが入っていなくてもデータを取得することができます。



- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
  ［OK］を選ぶと、メニューに戻ります。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、［OK］を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW/sRAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、付属ソフトウェアによる自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量はごく小さなものですので、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、付属ソフトウェア使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。

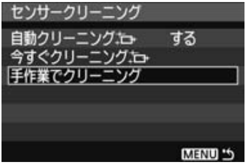
撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

清掃を始める前にレンズを取り外してください。

---

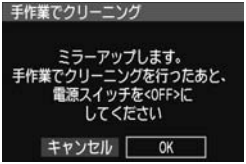
1 ［センサークリーニング］を選ぶ

● ［ ］タブの［センサークリーニング］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［手作業でクリーニング］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［手作業でクリーニング］を選び、〈SET〉を押します。



3 ［OK］を選ぶ

● 〈◎〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。

● 表示パネルに「**CLEA n**」が点滅します。

4 清掃を終了する

● 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

● 電源には、ACアダプターキットACK-E2（別売）の使用をおすすめします。
● 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。なお、バッテリーグリップを装着して、その電源に単3形電池を使用しているときは、手作業での撮像素子清掃はできません。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷するおそれがあります。**
  - **・電源スイッチを〈OFF〉にする**
  - **・電池室ふたを開ける**
  - **・CFカードスロットカバーを開ける**
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因となります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。

9

カメラダイレクトプリント／撮影画像の印刷指定

カメラとプリンターを直接つないで、CFカードに記録されている画像を印刷することができます。

このカメラは、ダイレクトプリント標準規格の「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応しています。

また、CFカードに記録されている画像の中から、印刷したい画像を、あらかじめ指定することもできます。（p.141）

DPOF（印刷指定）について

DPOF（Digital Print Order Format）は、印刷したい画像とその枚数などの印刷指定情報を、CFカードに記録するための規格です。複数の画像をまとめて一度に印刷したいときや、指定した画像の印刷を写真店に注文する際に使います。

弊社PictBridgeホームページについて

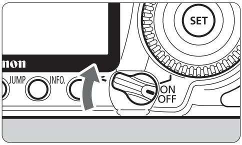
キヤノン製のカメラとプリンターを接続したときに、どのような用紙が使用できるかなどを、下記の弊社ホームページで確認することができます。

http://canon.jp/pictbridge/

印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います**。

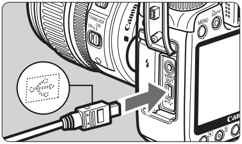
カメラとプリンターを接続する



1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

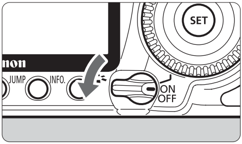
- 詳しくはプリンターの使用説明書を参照してください。



3 カメラとプリンターを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈•⊂⊃〉マークが、カメラの前面に向くようにして、カメラの〈•⊂⊃〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる



5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

PictBridge



6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターが接続されていることを示すマーク〈〉が表示されます。
- ➡ 〈〉ボタンのランプが青色に点灯します。

- 「CPダイレクト」または「Bubble　Jetダイレクト」のみに対応したプリンターは使用できません。
- カメラとプリンターの接続には、付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認できます。

  〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、次の操作を行ってください。

  1.〈SET〉を押す

  2. 印刷設定画面で［**印刷**］を選ぶ

  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。（p.140）

- このカメラで撮影したRAW/sRAW画像も印刷できます。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電した電池で約7時間印刷できます。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。
- ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキットACK-E2（別売）の使用をおすすめします。

印刷する

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示



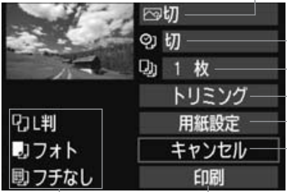
1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈 〉が表示されていることを確認します。
- 〈 〉を回して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

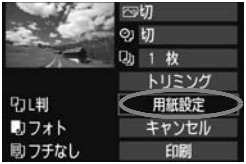
➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面



印刷効果を設定します（p.136）
日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
何枚印刷するかを設定します
印刷範囲を設定します（p.139）
用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
手順1の画面に戻ります
印刷を開始します
設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

*** プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

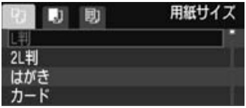


3 ［用紙設定］を選ぶ

- 〈 〉を回して［**用紙設定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定



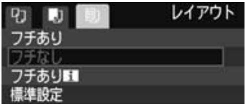
- 〈◎〉を回してプリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 用紙タイプの設定画面になります。

用紙タイプの設定



- 〈◎〉を回してプリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。
- キヤノン製プリンターで、純正用紙を使うときは、プリンターの使用説明書で使用できる用紙を確認してください。
- ➡ レイアウトの設定画面になります。

レイアウトの設定

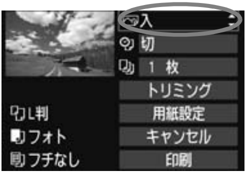


- 〈◎〉を回して印刷レイアウトを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷設定画面に戻ります。

フチあり	用紙のまわりに余白をつけて印刷します。
フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり i	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 i **35面配置 □**	DPOFで印刷指定した画像を20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します。 ・［**20面配置 i**］では、画像の横に撮影情報*、画像の下に画像番号と日付**を印刷します。 ・［**35面配置 □**］では、画像の下に画像番号、日付**を印刷します。
標準設定	キヤノン製プリンターでは、「フチなし」で印刷されます。

* Exif 情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

**手順5（p.137）の〈⊙〉日付／画像番号印刷の設定によります。



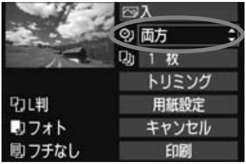
4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して画面右上の項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈INFO.〉の横に〈目〉が表示されているときは、印刷効果の調整を行うこともできます。（p.138）
- 続けて〈◎〉を回して印刷効果を選び、〈SET〉を押します。

項目	印刷内容
切	印刷特性は「入」と同じです。自動補正は行われません。
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
NR	画像のノイズ低減処理が行われて印刷されます。
B/W 白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W 冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W 温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	画像本来の色やコントラストを生かした印刷が行われます。自動色調整は行われません。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。
標準設定	プリンターの機種により印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。

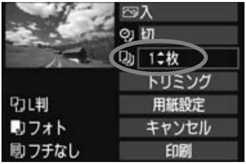
* **表示される内容は、プリンターの機種により異なります。**

* **印刷効果を変えると、その内容が画面に反映されます。なお、実際の印刷結果とは異なる場合がありますので、目安としてご覧ください。138ページの［明るさ補正］と［レベル補正］も同様です。**



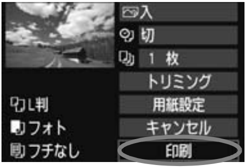
5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して〈⊙〉を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して印刷内容を選び、〈SET〉を押します。



6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◎〉を回して〈⧉〉を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◎〉を回して印刷枚数を選び、〈SET〉を押します。

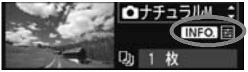


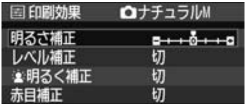
7 印刷する

- 〈◎〉を回して［**印刷**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 〈⎙〉ボタンの青いランプが点滅して、印刷が開始されます。

- 同じ設定で別の画像を印刷するときは、画像を選んで、青いランプが点灯した〈⎙〉ボタンを押すだけで「かんたん印刷」ができます。なお、1枚ずつの印刷で、トリミングの設定は反映されません。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 「画像の角度補正」（p.139）を行うと、印刷に時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押して［**OK**］を選びます。

印刷効果の調整について



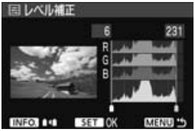


136 ページの手順 4 で項目を選び、〈INFO.〉の横に〈〉が表示されているときに、〈INFO.〉ボタンを押すと、印刷効果の調整を行うことができます。調整できる（表示される）内容は、手順4の選択内容により異なります。

● **明るさ補正**

画像の明るさを調整することができます。

● **レベル補正**



［**手動**］を選ぶと、ヒストグラムの分布を変更して、画像の明るさとコントラストを調整することができます。

レベル補正画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈〉の位置が切り換わります。〈〉を回すと、シャドウレベル（0～127）、ハイライトレベル（128～255）を任意に調整することができます。

● **明るく補正**

逆光などで被写体の顔が暗くなった画像で効果的です。［**入**］に設定すると、顔が明るく印刷されます。

● **赤目補正**

ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった（赤目現象が発生した）画像で効果的です。［**入**］に設定すると、目の赤みが緩和されて印刷されます。

- ［**明るく補正**］と［**赤目補正**］の効果は、画面で確認できません。
- ［**詳細設定**］を選ぶと、［**コントラスト**］［**色の濃さ**］［**色あい**］［**カラーバランス**］の調整を選ぶことができます。なお、［**カラーバランス**］の調整は、〈〉で行います。Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ［**初期化**］を選ぶと、設定した印刷効果の内容がすべて初期状態に戻ります。

トリミング（印刷範囲）の設定



画像を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。**トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。**トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状は、［**用紙設定**］の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈⊕〉〈⊟·⊖〉ボタンを押すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

〈✣〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

〈INFO.〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

画像の角度を補正する

〈◎〉を回すと、0.5度単位±10度の範囲で画像を回転させることができます。回転を行うと、〈●⊿〉が青色に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

➡ 印刷設定画面に戻ります。
- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。画質が粗くなるときは、枠が赤く表示されます。
- トリミングは、液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングを行うと、枠が正しく表示されないことがあります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー：
用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー：
インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー：
用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー：
選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

画像を印刷指定する／DPOF

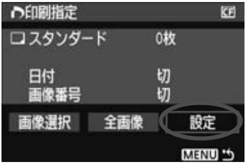
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する



1 ［印刷指定］を選ぶ

➡ ［▶︎］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。



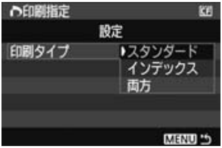
2 ［設定］を選ぶ

- 〈◎〉を回して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈◎〉を回して内容を選び、〈SET〉を押します。

［印刷タイプ］



［日付］



［画像番号］



印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入 切		［入］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
画像番号	入 切		［入］にすると、画像番号を付けて印刷します。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の［**画像選択**］［**全画像**］で、印刷する画像を指定します。

- ［**日付**］［**画像番号**］を［**入**］にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったCFカードを使用してください。画像データだけをCFカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF 対応プリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- ほかのカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

- RAW/sRAW画像は印刷指定できません。
- ［**インデックス**］では、［**日付**］と［**画像番号**］を同時に［**入**］にできません。

印刷する画像を指定する

● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈⊞·Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がCFカードに保存されます。



［スタンダード］［両方］

〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◎〉を回すと、その画像の枚数指定を最大99枚にすることができます。



［インデックス］

〈SET〉を押すと、表示されている画像がインデックス印刷用の画像として指定され、画面左上に〈✓〉が付きます。

● 全画像

指定を選ぶと、CFカードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、解除を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

- 全画像指定を行っても、RAW/sRAW画像は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

印刷指定画像のダイレクトプリント



印刷指定した画像を、PictBridge対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

- 132ページを参照してください。
  『カメラとプリンターを接続する』の手順5まで行います。

2 [▶̇] タブの [印刷指定] を選ぶ

3 [印刷] を選ぶ

- [**印刷**] は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

4 [用紙設定] の内容を設定する（p.134）

- 印刷効果（p.136）は必要に応じて設定します。

5 [OK] を選ぶ

- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [**フチあり**] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

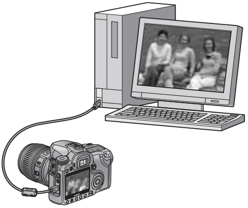
- [**レベル補正**] の [**手動**] は選択できません。
- 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、[**再開**] を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
  - ・再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき／インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき／印刷を中断したときに、CFカードの空き容量が少なかったとき
- 印刷中に問題が発生したときは、140ページを参照してください。

10

撮影画像のパソコンへの転送

CFカードに記録されている画像の中から、パソコンに保存したい画像を選び、カメラを操作して画像をパソコンに直接転送することができます。

あらかじめ付属のソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk／CD-ROM）をパソコンにインストールしておけば、パソコンを操作せずに、簡単に画像を転送して保存することができます。

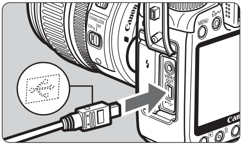


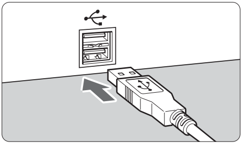
- 付属ソフトウェアのパソコンへのインストール方法については、別紙の「CD-ROMガイド」を参照してください。
- パソコンを操作して、CFカードに記録されている画像を取り込みたいときは、「ソフトウェア使用説明書」（CD-ROM）を参照してください。

パソコンに画像を転送する

カメラとパソコンを接続する前に、必ず付属のソフトウェア（EOS DIGITAL SolutionDisk／CD-ROM）をパソコンにインストールしてください。

画像転送の準備





1 カメラとパソコンを接続する

- カメラの電源を切り、カメラに付属のインターフェースケーブルで接続します。
- カメラ側を接続するときはプラグの〈⇔〉マークが、カメラの前面に向くようにして、カメラの〈⇔〉端子に差し込みます。
- パソコンのUSB接続部にプラグを差し込みます。

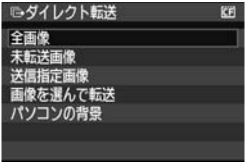
2 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

- パソコンに、プログラムを選択する画面が表示されたときは、［**EOS Utility**］を選びます。
  カメラの機種を選択する画面が表示されたときは、このカメラの名称を選びます。
- ➡ パソコンに［**EOS Utility**］の画面が表示され、カメラの液晶モニターにダイレクト転送の画面が表示されます。

ダイレクト転送画面表示中は、撮影できません。

- ［**EOS Utility**］の画面が表示されないときは、「ソフトウェア使用説明書」（CD-ROM）を参照してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラの電源を切ってから、プラグの側面を持って引いてください。

パソコンに画像を送る



パソコンに転送した画像は、撮影日ごとに分けられて、[**マイピクチャ**] フォルダ（Windows）、または [**ピクチャ**] フォルダ（Macintosh）に保存されます。

項目を選んで〈⎙〉ボタンを押すと、〈⎙〉ボタンの青いランプが点滅して画像転送を開始します。

転送が終わると青いランプが点灯します。〈⎙〉ボタンの代わりに〈SET〉を押しても画像転送を行うことができます。

- **全画像**

  CFカードに記録されているすべての画像を転送します。

- **未転送画像**

  パソコンに転送されていない画像をカメラが自動的に選んで転送します。

- **送信指定画像**

  パソコンに送る画像を指定して、まとめて転送します。（p.148）

- **画像を選んで転送**



画像を1枚ずつ選んでパソコンに転送します。終了するときは、〈MENU〉ボタンを押します。

- **パソコンの背景**

  画像を選んで転送すると、パソコンのデスクトップ画面の背景（壁紙）として表示されます。終了するときは、〈MENU〉ボタンを押します。

- 画像転送中は、インターフェースケーブルを取り外さないでください。
- RAW/sRAW画像は、壁紙として転送できません。

MENU パソコンに送る画像を指定する



［▶̇］タブの［**送信指定**］で、パソコンに転送する画像をあらかじめ指定することができます。

前ページで［**送信指定画像**］を選ぶと、送信指定した画像を転送することができます。

● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。〈SET〉を押すと、表示されている画像が指定され、画面左上に〈✓〉が付きます。

指定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がCFカードに保存されます。

● 全画像

指定を選ぶと、CFカードに記録されているすべての画像が送信指定されます。なお、解除を選ぶと、カード内の送信指定がすべて解除されます。

ほかのカメラで送信指定した画像を、このカメラに入れて再度送信指定しないでください。送信指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、送信指定できないことがあります。

- 記録画質RAW+JPEG、またはsRAW+JPEGで撮影した画像を送信指定すると、"1枚"としてカウントされます。ダイレクト転送を行うと、RAW/sRAW画像、JPEG画像ともにパソコンに転送されます。
- 999画像以上を一度に転送するときは、ダイレクト転送画面で［**全画像**］を選んでください。

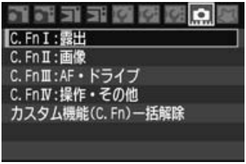
11

カメラをカスタマイズする

カスタム機能でカメラの機能を細かく変更することができます。また、現在使用しているカメラの設定内容を、モードダイヤルの〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉に登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、応用撮影ゾーンで設定、機能します。

MENU カスタム機能の設定方法 応用



1 [ ] を選ぶ

- 〈◌〉を回して [ ] を選びます。

2 グループを選ぶ

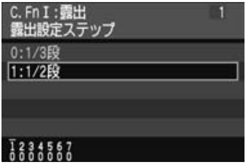
- 〈◎〉を回してC.Fn I～IVのいずれかを選び、〈SET〉を押します。

カスタム機能番号



3 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◎〉を回して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。



4 設定を変更する

- 〈◎〉を回して設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順2～4を繰り返して、そのほかのカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

5 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 手順2の画面に戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

手順2で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

カスタム機能の一括解除を行っても、C.Fn IV -5［**フォーカシングスクリーン**］の設定内容は保持されます。

カスタム機能一覧

C.Fn I：露出

1	露出設定ステップ
2	ISO感度設定ステップ
3	ISO感度拡張
4	ブラケティング自動解除
5	ブラケティング順序
6	セイフティシフト
7	Avモード時のストロボ同調速度

C.Fn II：画像

1	長秒時露光のノイズ低減
2	高感度撮影時のノイズ低減
3	高輝度側・階調優先

C.Fn III：AF・ドライブ

1	AF測距不能時のレンズ動作
2	レンズ・AFストップボタンの機能
3	AFフレーム選択方法
4	スーパーインポーズの表示
5	AF補助光の投光
6	ライブビュー撮影中のAF
7	ミラーアップ撮影

C.Fn IV：操作・その他

1	シャッター /AF-ONボタン
2	AF-ON/AEロックボタン入替
3	撮影時のSETボタン
4	Tv/Av値設定時のダイヤル回転
5	フォーカシングスクリーン
6	オリジナル画像判定用データの付加
7	ライブビュー露出シミュレーション

番号に ▭ が付いたカスタム機能は、ライブビュー撮影時は機能しません（設定が無効となります）。C.Fn III -2は、「2, 5」のみ有効です。

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

カスタム機能は、機能ごとに4つのグループ（「C.Fn I：露出」、「C.Fn II：画像」、「C.Fn III：AF・ドライブ」、「C.Fn IV：操作・その他」）に分類されています。

C.Fn I：露出

C.Fn I -1　露出設定ステップ

0： 1/3段

1： 1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEBなどの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示は図のようになります。



C.Fn I -2　ISO感度設定ステップ

0： 1/3段

1： 1段

C.Fn I -3　ISO感度拡張

0： しない

1： する

ISO感度を設定するときに、ISO3200相当「**H**」が選択できるようになります。

C.Fn I -4　ブラケティング自動解除

0：する

電源スイッチ〈OFF〉、カメラ設定初期化を行うと、AEB、WB-BKTの設定が解除されます。また、ストロボ充電（完了）でAEBの設定が解除されます。

1：しない

電源スイッチ〈OFF〉を行っても、AEB、WB-BKTの設定が解除されないようになります。（ストロボ充電完了でAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています。）

C.Fn I -5　ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、ホワイトバランスブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0：0→－→＋

1：－→0→＋

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
－：マイナス補正	－：ブルー寄りに補正	－：マゼンタ寄りに補正
＋：プラス補正	＋：アンバー寄りに補正	＋：グリーン寄りに補正

C.Fn I -6　セイフティシフト

0：しない

1：する（Tv/Av値）

シャッター優先AE（Tv）、絞り優先AE（Av）撮影時に機能します。被写体の明るさが急に変化して、設定したシャッター速度、絞り数値が不適切になっても、設定値を自動的に変更して適正露出にします。

C.Fn I -7　Avモード時のストロボ同調速度

0：自動

1：1/250秒固定

絞り優先AEモードでのストロボ撮影で、シャッター速度を1/250秒に固定します。（夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、被写体の背景が暗くなります。）

C.Fn II：画像

C.Fn II -1　長秒時露光のノイズ低減

0： しない

1： 自動

露光時間1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この［**自動**］で十分な効果が得られます。

2： する

露光時間１秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出、低減できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

2設定時、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、液晶モニターに何も表示されません（ライブビュー表示は行われません）。なお、低減処理中に次の撮影を行うことはできますが、液晶モニターやファインダーで、ピントや構図を確認することができないため、低減処理中の撮影はおすすめできません。

1, 2設定時は、撮影後、低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。なお、低減処理中でも、ファインダー内の連続撮影可能枚数が「**1**」以上のときは、続けて撮影することができます。

C.Fn II -2　高感度撮影時のノイズ低減

0： しない

1： する

画像に発生するノイズを低減します。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に効果的です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1設定時は、連続撮影可能枚数が大幅に少なくなります。

C.Fn II -3　高輝度側・階調優先

0：しない

1：する

高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

1設定時は、通常撮影時より、低輝度部のノイズが若干増えることがあります。

1設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～1600になります。
また、表示パネルと、ファインダー内に表示されるISO感度は、「**2oo**」のように、0（ゼロ）が通常よりも小さく表示されます。なお、撮影情報表示（p.115）で再生したときも、同様に0（ゼロ）が小さく表示されます。

C.Fn III：AF・ドライブ

C.Fn III -1　AF測距不能時のレンズ動作

AFを行って合焦できないときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

0：サーチ駆動する

1：駆動しない

再測距を行って大ボケ状態になることを防止することができます。特に大ボケ状態になりやすい、超望遠レンズ使用時に有効です。

C.Fn III -2　レンズ・AFストップボタンの機能

0：AFストップ

1：AFスタート

押している間だけAFが作動します。押している間は、カメラ側操作によるAF作動は行いません。

2：AEロック

押すとAEロックします。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。

3：測距点 任意→自動/自動→中央

AFフレーム任意選択時に押すと、押している間だけAFフレーム自動選択になります。任意選択から自動選択へ瞬時に切り換わるので、AIサーボAF作動中に、任意選択したAFフレームで被写体に追従できなくなったときに有効です。

AFフレーム自動選択時に押すと、押している間だけ中央のAFフレームが選択されます。

4：ワンショット⇄AIサーボ

ワンショットAF時に押すと、押している間だけAIサーボAFになり、AIサーボAF時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。

移動･停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

5：手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチが〈**ON**〉のときに、AFストップボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します。

- AFストップボタンは、手ブレ補正機能付き超望遠レンズに装備されています。
- 5設定時は、シャッターボタンを半押ししても、手ブレ補正機能は作動しません。

C.Fn III -3　AFフレーム選択方法

0：通常

〈⊞〉ボタンを押したあと、〈✣〉でAFフレームを選びます。

1：マルチコントローラーダイレクト

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈✣〉で直接AFフレームを選ぶことができます。〈⊞〉ボタンを押すと自動選択になります。

2：サブ電子ダイヤルダイレクト

最初に〈⊞〉ボタンを押さずに、〈◎〉で直接AFフレームを選ぶことができます。〈⊞〉ボタンを押しながら〈☼〉を回すと、露出補正を行うことができます。

C.Fn III -4　スーパーインポーズの表示

0：する

1：しない

ピントが合ったときにファインダー内のAFフレームの赤色点灯表示を行いません。点灯がわずらわしいときに設定します。

ただし、AFフレーム選択時は点灯します。

C.Fn III -5　AF補助光の投光

カメラの内蔵ストロボによるAF補助光、EOS用外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

AF補助光を投光しません。

2：外部ストロボ使用時のみ投光する

EOS用外部ストロボ使用時は、必要に応じてAF補助光を投光します。内蔵ストロボによるAF補助光は投光しません。

EOS用外部ストロボのカスタム機能で、［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、C.Fn III -5-0,2を設定しても、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

C.Fn III -6　ライブビュー撮影中のAF

0：しない

1：する

ライブビュー表示中に〈AF-ON〉ボタンを押すと、押している間だけライブビュー表示を中断してピント合わせを行います。

C.Fn III -7　ミラーアップ撮影

望遠レンズを使用した撮影や、近接（マクロ）撮影で、ミラーの作動によるカメラブレを防止することができます。ミラーアップ撮影については、96ページを参照してください。

0：しない

1：する

C.Fn IV：操作・その他

C.Fn IV -1　シャッター /AF-ONボタン

0：測光・AF開始

1：測光・AF開始/AFストップ

AF中に〈AF-ON〉ボタンを押すと、測距を中止します。

2：測光開始/測光・AF開始

移動・停止を繰り返す被写体の撮影で有効です。AIサーボAF時は、〈AF-ON〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にしてシャッターチャンスを待つことができます。

3：AEロック/測光・AF開始

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈AF-ON〉ボタンで測光・AF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出決定）することができます。

4：測光・AF開始/無効

〈AF-ON〉ボタンは機能しません。

C.Fn IV -2　AF-ON/AEロックボタン入替

0：しない

1：する

〈AF-ON〉ボタンと〈✱/🔍〉ボタンの機能が入れ替わります。

1設定時に、再生画像をインデックス表示や縮小表示にするときは、〈AF-ON〉ボタンで行います。

C.Fn IV -3　撮影時のSETボタン

よく使う機能を、〈SET〉に割り当てることができます。撮影準備状態で〈SET〉を押します。

0：通常（無効）

1：記録画質選択

〈SET〉を押したあと、表示パネルを見ながら、記録画質を〈◎〉で直接設定することができるようになります。

2：ピクチャースタイル選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイルの選択画面が表示されます。〈◎〉を回してスタイルを選び、〈SET〉を押します。

3：メニュー表示

〈MENU〉ボタンと同じになります。

4：画像の再生

〈▶〉ボタンと同じになります。

1～4に設定しても、メニュー［**ライブビュー撮影**］が［**する**］に設定されているときは、ライブビュー撮影が優先されます。撮影準備状態で〈SET〉を押すと、ライブビュー映像が表示されます。

C.Fn IV -4　Tv/Av値設定時のダイヤル回転

0：通常

1：設定方向を反転

シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。

マニュアル露出時は〈⌒〉〈◎〉、それ以外の撮影モードでは〈⌒〉による設定方向が反転します。マニュアル露出時と、露出補正時の〈◎〉による設定方向が同じになります。

C.Fn IV -5　フォーカシングスクリーン

このカメラは、フォーカシングスクリーンを撮影目的にあわせて交換することができます。お使いになるフォーカシングスクリーンのタイプに応じて、このカスタム機能で適正露出の基準設定を変更する必要があります。

0：Ef-A

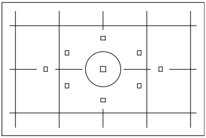
1：Ef-D

2：Ef-S

フォーカシングスクリーンの特性について

Ef-A：標準プレシジョンマット
購入時のカメラに組み込まれている標準フォーカシングスクリーンです。ファインダーの明るさと、手動ピント合わせのしやすさをバランスよく両立しています。

Ef-D：方眼プレシジョンマット
Ef-Aに方眼線を引いたフォーカシングスクリーンです。構図の垂直・水平決めを楽に行うことができます。



Ef-S：スーパープレシジョンマット
Ef-Aよりもピントの山をつかみやすくしたフォーカシングスクリーンです。手動ピント合わせを主にされているかたに有効です。

スーパープレシジョンマットEf-Sとレンズの開放絞り数値について

- F2.8以上の明るいレンズに最適化されています。
- F2.8より暗いレンズを使用すると、標準スクリーンEf-A装着時よりもファインダーが暗くなります。

- EOS 40Dの標準フォーカシングスクリーンはEf-Aですので、購入時の状態はC.Fn IV -5-0に設定されています。
- フォーカシングスクリーンの交換方法は、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。
- C.Fn IV -5の設定は、カメラユーザー設定の登録内容（p.163）に含まれません。

C.Fn IV -6　オリジナル画像判定用データの付加

0：しない

1：する

撮影画像に、その画像がオリジナルであるか否かを判定するためのデータが自動的に付加されます。判定用データが付加された画像を撮影情報表示（p.115）で再生すると、〈🔒〉が表示されます。

オリジナル画像の判定には、オリジナルデータセキュリティキットOSK-E3（別売）が必要です。

C.Fn IV -7　ライブビュー露出シミュレーション

0：しない（適正表示）

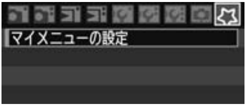
1：する（撮影露出イメージ表示）

ライブビュー撮影時のリアルタイム映像が、露出設定に応じた明るさで表示され、撮影前に露出のイメージを把握することができるようになります。

- 絞り込みボタンを押すと、C.Fn IV -7の設定に関係なく撮影露出イメージ表示を行うことができます。なお、低輝度、高輝度条件下では、露出設定に応じた明るさで表示されない場合があります。
- 1に設定しても、ストロボ使用時、およびバルブ撮影時は、撮影露出イメージ表示は行われません。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニューとカスタム機能を選んで、6項目まで登録することができます。



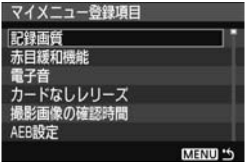
1 **［マイメニューの設定］を選ぶ**

- ［★］タブの［**マイメニューの設定**］を選び、〈SET〉を押します。



2 **［登録］を選ぶ**

- 〈◎〉を回して［**登録**］を選び、〈SET〉を押します。



3 **登録する**

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で［**OK**］を選び、〈SET〉を押すと登録されます。
- 操作を繰り返して6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順２の画面に戻ります。

マイメニューの設定について

手順2で表示される［**並べ替え**］などの内容は、以下のようになっています。

- **並べ替え**

  登録したメニューの並び順を変えることができます。［**並べ替え**］を選び、並び順を変えるメニューを選んで〈SET〉を押します。［◆］が表示された状態で〈◎〉を回して並び順を変え、〈SET〉を押します。

- **マイメニューから表示**

  ［**する**］に設定すると、メニューを表示したときに［★］タブから表示します。

- **削除、全項目削除**

  登録したメニューを削除します。［**削除**］は１項目ずつ削除し、［**全項目削除**］は一括して削除します。

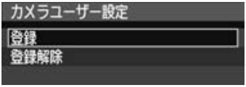
MENU カメラユーザー設定の登録 応用

撮影モードやメニュー、カスタム機能など、今カメラに設定されているほとんどの内容を、モードダイヤルの〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉にカメラユーザー設定として登録することができます。

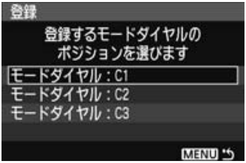


1 ［カメラユーザー設定］を選ぶ

- ［ץ:］タブの［**カメラユーザー設定**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［登録］を選ぶ



3 登録する

- 〈◎〉を回して登録するポジションを選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 使用中のカメラの設定内容がモードダイヤルのC＊に登録されます。

カメラユーザー設定の［解除］について

手順2で［**解除**］を選ぶと、登録前の初期設定に戻すことができます。操作方法は手順3と同じです。

- マイメニューの設定内容は、登録されません。
- モードダイヤルが〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉のポジションのときは、メニューの［ץ: **カメラ設定初期化**］と［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］は、行うことができません。

- モードダイヤルが〈C1〉、〈C2〉、〈C3〉のポジションのときも、ドライブモードやメニューなどの設定変更が可能です。なお、その変更内容を登録したいときは、上記のカメラユーザー設定の登録操作を行ってください。
- 登録されている内容は、〈INFO.〉ボタンを押すと液晶モニターに表示されます。（p.166）



12

資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。また、章の最後には索引を設け、知りたいことが見つけやすいようになっています。

INFO. 設定状態の確認

撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、「カメラ設定の内容」と「撮影機能の設定状態」が表示されます。

「撮影機能の設定状態」を表示させているときは、ISO感度など撮影機能に関する設定を液晶モニターを見ながら行うことができます。



「カメラ設定の内容」と「撮影機能の設定状態」を表示する

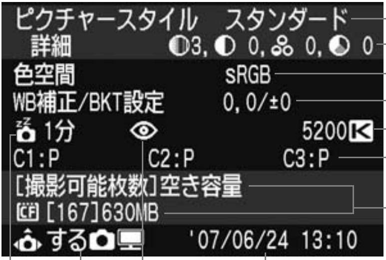
- 〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ ボタンを押すたびに表示が変わります。



どちらか1つだけを表示する

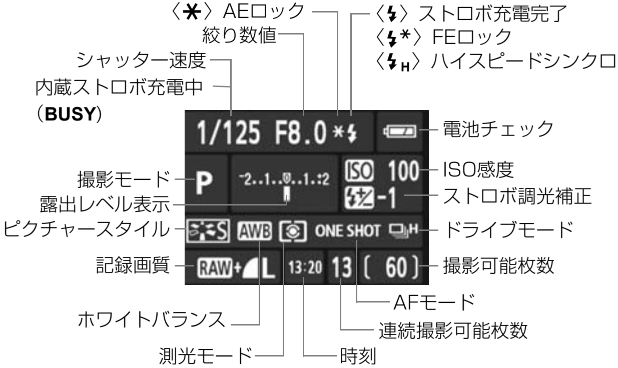
- メニュー［INFOボタン表示］で［**カメラ設定**］の内容か、［**撮影機能**］の設定状態のどちらか1つだけを表示させることができます。

カメラ設定の内容



（p.59、60）
（p.72）
（p.68、69）
色温度（p.67）
モードダイヤルC1、C2、C3に登録されている撮影モード
（p.55、26）
日付/時刻（p.39）
赤目緩和（p.98）
縦位置画像回転表示（p.124）
オートパワーオフ（p.40）

撮影機能の設定状態



〈ISO・フラッシュ補正〉、〈AF・DRIVE〉、〈測光・WB〉、〈AFフレーム〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈メイン電子ダイヤル〉、または〈サブ電子ダイヤル〉で設定を行うことができます。AFフレームは〈マルチコントローラー〉で選択することもできます。



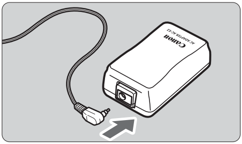






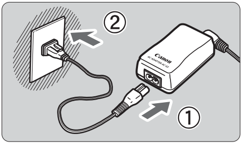
家庭用電源を使用する

ACアダプターキットACK-E2（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。



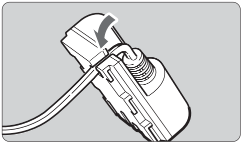
1 DCカプラーのプラグを接続する

- DCカプラーのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。



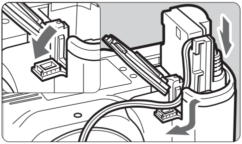
2 電源コードを接続する

- 電源コードをACアダプターに接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。



3 コードを溝にはめ込む

- DC カプラーのコードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。



4 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DC　カプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。

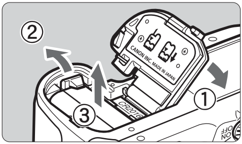
カメラの電源スイッチを〈ON〉または〈⤶〉にしたままで、電源コードの抜き差しを行わないでください。

日付／時計機能用電池を交換する

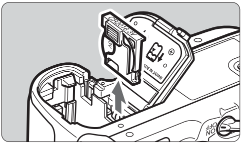
日付/時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。電池を交換したときに、日付/時刻がリセットされるようになったら、新しいCR2016リチウム電池を次の手順で交換してください。

日付/時刻が初期化されますので、必ず再設定してください。

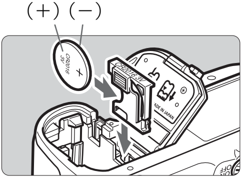
1 電池スイッチを〈OFF〉にする



2 電池を取り出す

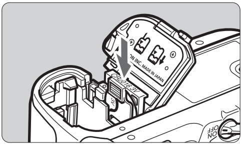


3 電池ホルダーを取り外す



4 電池を入れ換える

- ＋－を正しく合わせて入れます。



5 電池ホルダーを入れる

- そのあと、電池を入れて、ふたを閉じます。

日付/時計機能用電池は、必ずCR2016リチウム電池を使用してください。

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能　▭：選択不可

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン							応用撮影ゾーン				
		[全自動]	[ポートレート]	[風景]	[クローズアップ]	[スポーツ]	[夜景ポートレート]	[ストロボ発光禁止]	P	Tv	Av	M	A-DEP
記録画質	JPEG	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	RAW								○	○	○	○	○
	RAW＋JPEG								○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	手動設定								○	○	○	○	○
ピクチャースタイル	スタンダード	●			●	●	●	●	○	○	○	○	○
	ポートレート		●						○	○	○	○	○
	風景			●					○	○	○	○	○
	ニュートラル								○	○	○	○	○
	忠実設定								○	○	○	○	○
	モノクロ								○	○	○	○	○
	ユーザー設定								○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	Adobe RGB								○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オートWB	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	プリセットWB								○	○	○	○	○
	MWB								○	○	○	○	○
	色温度指定								○	○	○	○	○
	WB補正								○	○	○	○	○
	WBブラケティング								○	○	○	○	○
AF	ワンショット		●	●	●		●		○	○	○	○	●
	AIサーボ					●			○	○	○	○	
	AIフォーカス	●						●	○	○	○	○	
	AFフレーム選択 自動	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●
	AFフレーム選択 任意								○	○	○	○	
	AF補助光	●	●		●		●		○	○	○	○	○

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン							応用撮影ゾーン				
		□							P	Tv	Av	M	A-DEP
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	部分測光								○	○	○	○	○
	スポット測光								○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光								○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト								○				
	露出補正								○	○	○		○
	AEB								○	○	○	○	○
	AEロック								○	○	○		○
	被写界深度確認								○	○	○	○	○
ドライブ	1枚撮影	●		●	●		●	●	○	○	○	○	○
	高速連続撮影					●			○	○	○	○	○
	低速連続撮影		●						○	○	○	○	○
	セルフタイマー10秒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフタイマー2秒								○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光	●	●		●		●						
	手動発光								○	○	○	○	○
	発光禁止			●		●		●					
	赤目緩和	○	○		○		○		○	○	○	○	○
	FEロック								○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正								○	○	○	○	○
ライブビュー撮影									○	○	○	○	○

故障かな？と考える前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源

付属の充電器で電池が充電できない

- バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512を使用してください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください。（p.24）
- 電池室ふたが閉じているか確認してください。（p.24）
- CFカードスロットカバーが閉じているか確認してください。（p.26）

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使ってください。（p.22）
- 何度も繰り返し使用した電池で消耗が早いときは、新しい電池をお買い求めください。

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、メニュー［**ᛉ˙ オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。

表示パネルに〈▭〉のみが点滅している

- 電池を充電してください。（p.22）

撮影

撮影・記録ができない

- CFカードが正しくセットされているか確認してください。（p.26）
- CFカードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください。（p.26、122）
- ワンショット AF でピント合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください。（p.30、78）

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターにゴミやほこりがついているときは、眼鏡ふきや、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（p.28）
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください。（p.30、33）

CFカードが使えない

- CFカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、41ページ、または175ページを参照してください。

カメラを振ると音がする

- 内蔵ストロボを上げるための機構がわずかに動くためで、故障ではありません。

ライブビュー撮影ができない

- ライブビュー撮影を行うときは、CFカードを使用してください（マイクロドライブなどのハードディスクタイプのCFカードの使用はおすすめできません）。ハードディスクタイプのCFカードは、CFカードよりも使用可能温度が低いため、ハードディスクを保護する機能が作動して、ライブビュー撮影が一時的にできなくなることがあります。カメラ内部の温度が下がると、ライブビュー撮影ができるようになります。（p.105）

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

画像の確認・操作

画像を消去できない

- 画像にプロテクトがかかっていると消去できません。（p.121）

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

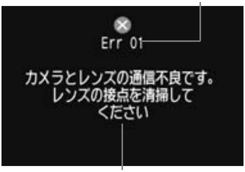
- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。（p.39）

テレビに画像が表示されない

- ビデオケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。（p.120）
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定してください。（p.37）
- カメラに付属のビデオケーブルを使用してください。（p.120）

エラー表示

エラー番号



原因・対処方法

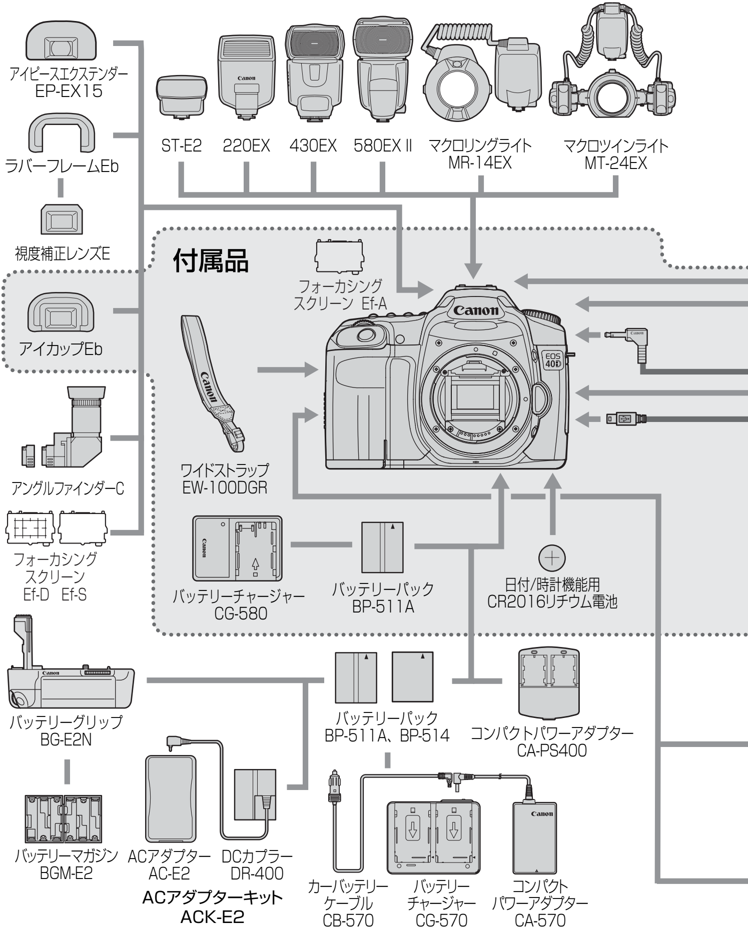
カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

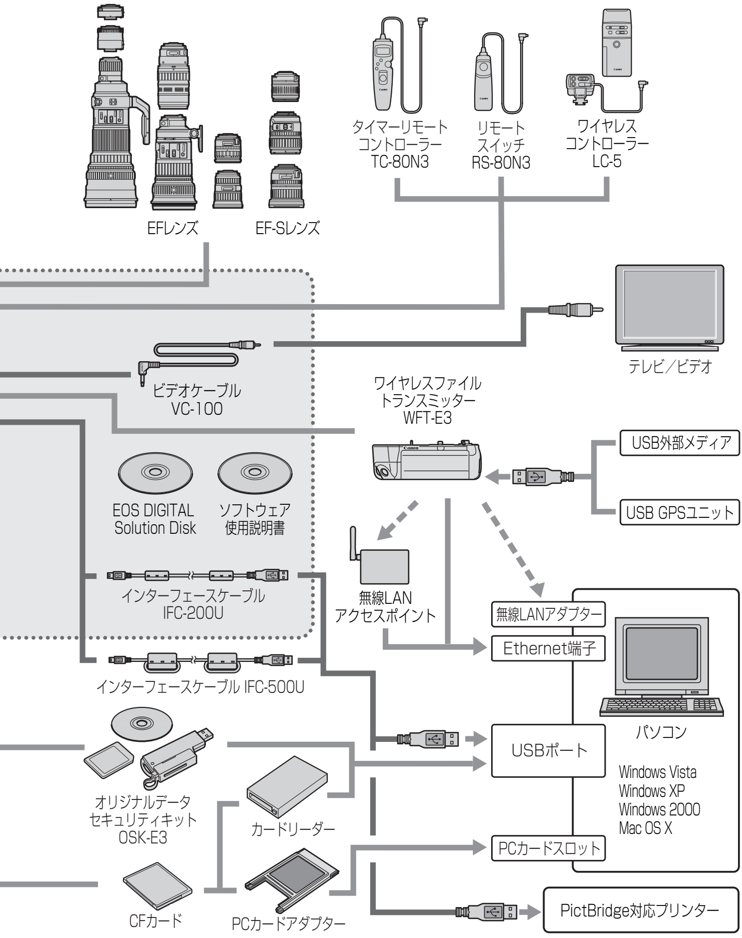
エラー状態から復帰させるときは、電源スイッチの〈**OFF**〉→〈**ON**〉、または電池の出し入れを行ってください。

なお、エラー02（CFカードのトラブル）が表示されたときは、カードの抜き差し、または初期化で正常に戻ることがあります。

頻繁にエラー画面が表示されるときは故障ですので、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

システムマップ


アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEb
視度補正レンズE
アイカップEb
アングルファインダーC
フォーカシング
スクリーン
Ef-D Ef-S
ST-E2
220EX
430EX
580EX II
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
付属品
フォーカシング
スクリーン Ef-A
ワイドストラップ
EW-100DGR
バッテリーチャージャー
CG-580
バッテリーパック
BP-511A
日付/時計機能用
CR2016リチウム電池
バッテリーグリップ
BG-E2N
バッテリーマガジン
BGM-E2
ACアダプター
AC-E2
DCカプラー
DR-400
ACアダプターキット
ACK-E2
バッテリーパック
BP-511A、BP-514
コンパクトパワーアダプター
CA-PS400
カーバッテリー
ケーブル
CB-570
バッテリー
チャージャー
CG-570
コンパクト
パワーアダプター
CA-570



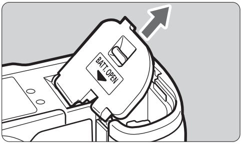
タイマーリモート
コントローラー
TC-80N3
リモート
スイッチ
RS-80N3
ワイヤレス
コントローラー
LC-5
EFレンズ
EF-Sレンズ
テレビ／ビデオ
ビデオケーブル
VC-100
ワイヤレスファイル
トランスミッター
WFT-E3
USB外部メディア
USB GPSユニット
EOS DIGITAL
Solution Disk
ソフトウェア
使用説明書
インターフェースケーブル
IFC-200U
無線LAN
アクセスポイント
無線LANアダプター
Ethernet端子
インターフェースケーブル IFC-500U
パソコン
USBポート
Windows Vista
Windows XP
Windows 2000
Mac OS X
オリジナルデータ
セキュリティキット
OSK-E3
カードリーダー
PCカードスロット
CFカード
PCカードアダプター
PictBridge対応プリンター

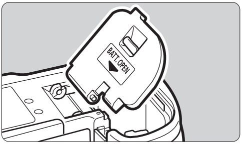
バッテリーグリップを使う

ここでは、EOS 20D、EOS 30D用のバッテリーグリップBG-E2を、このカメラで使う際の補足説明を行っています。ここに書かれている『電池室ふた着脱方法』と『撮影可能枚数の目安』以外の説明は、バッテリーグリップBG-E2の使用説明書を参照してください。

バッテリーグリップBG-E2Nをお使いの方は、BG-E2Nの使用説明書を参照してください。

電池室ふた着脱方法





- カメラを机の上などに置いて、落とさないようしっかり持ちます。
- 電池室ふたを開け、斜め方向に引いて取り外します。
- 取り外した電池室ふたは、バッテリーグリップに収納できます。
- 電池室ふたを取り付けるときは、取り外したときと同じ斜めの向きで、電池室ふたのヒンジをカメラに差し込みます。

撮影可能枚数の目安

常温（+23℃）／低温（0℃）　［約・枚］

電源	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
BP-511A×2	2200/1900	1600/1400
単3形アルカリ乾電池	400/200	300/100

主な仕様

■型式

型式....................................ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体.............................CFカード（タイプI、II準拠）
* マイクロドライブ、2GB以上のCFカード使用可
* ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E3装着時、USB外部メディアに記録可能

撮像画面サイズ.................22.2×14.8mm
使用レンズ.........................キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント.................キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式....................................高感度・高解像度大型単板CMOSセンサー
画素数................................カメラ部有効画素：約1010万画素
総画素：約1050万画素
アスペクト比....................3：2
カラーフィルター方式......RGB原色フィルター
ローパスフィルター..........固定式、撮像素子前面に配置
ダスト除去機能.................（1）自動センサークリーニング
（2）手動センサークリーニング
（3）撮影画像へのダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット.............DCF2.0
画像タイプ.........................JPEG、RAW（14bit）
RAW+JPEG同時記録.....可能（sRAW+JPEGも可能）
ファイルサイズ.................（1）ラージ／ファイン　：約3.5MB（3888×2592画素）
（2）ラージ／ノーマル　：約1.8MB（3888×2592画素）
（3）ミドル／ファイン　：約2.1MB（2816×1880画素）
（4）ミドル／ノーマル　：約1.1MB（2816×1880画素）
（5）スモール／ファイン：約1.2MB（1936×1288画素）
（6）スモール／ノーマル：約0.7MB（1936×1288画素）
（7）RAW（ロウ）　：約12.4MB（3888×2592画素）
（8）sRAW（スモールロウ）：約7.1MB（1936×1288画素）
* ファイルサイズは、被写体条件、ISO 感度、ピクチャースタイルなどにより異なる

画像番号............................通し番号、オートリセット、強制リセット
色空間................................sRGB、Adobe RGB
ピクチャースタイル..........スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3

記録機能............................ WFT-E3装着時、カメラに装填したCFカードと、WFT-E3に接続したUSB外部メディアに下記の記録が可能
（1）標準
（2）記録メディア自動切り換え
（3）記録画質を指定して振り分け記録
（4）同一サイズの画像を記録
バックアップ.................... WFT-E3装着時に可能

■ホワイトバランス

種類.................................... オート、太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ、マニュアル、色温度指定
オートホワイトバランス.. 撮像素子を用いたオートホワイトバランス
色温度補正......................... ホワイトバランス補正：1段ステップ±9段
ホワイトバランスブラケティング：1段ステップ±3段
* ブルー／アンバー方向、マゼンタ／グリーン方向に補正可能
色温度情報通信 .... 対応

■ファインダー

方式.................................... ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率................................ 上下左右とも約95%
倍率.................................... 約0.95倍（50mmレンズ・∞・－1dpt）
アイポイント.................... 約22mm
視度調整範囲.................... －3.0～＋1.0dpt
フォーカシング
スクリーン........................ 交換式（別売2種類）、Ef-A標準装備
ミラー................................ クイックリターン式全面ハーフミラー
（透過：反射=40：60、ミラー切れ：EF600mm F4L IS USMまでなし）
ファインダー情報 .... AF情報（AFフレーム、合焦マーク）、露出情報（シャッター速度、絞り数値、AEロック、露出レベル表示、ISO感度、露出警告）、ストロボ情報（充電完了、ハイスピードシンクロ、FEロック、調光補正）、モノクロ撮影、ホワイトバランス補正、連続撮影可能枚数、CFカード情報
被写界深度確認 .... 絞り込みボタンによる

■オートフォーカス

方式.................................... TTL二次結像位相差検出方式
測距点................................ 9点（クロス測距）
輝度範囲............................ EV－0.5～18（常温・ISO100）
フォーカスモード .... ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）

AFフレーム選択................自動選択、任意選択
AFフレーム選択表示........ファインダー内スーパーインポーズと表示パネルによる
AF補助光..........................内蔵ストロボ間欠発光方式
有効距離：中央部約4m／周辺部約3.5m

■露出制御

測光方式............................35分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約9%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約3.8%）
・中央部重点平均測光
測光範囲............................EV1～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
露出制御方式.....................プログラムAE（全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、ストロボ発光禁止、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、自動深度優先AE、マニュアル露出、E-TTL II 自動調光
ISO感度
（推奨露光指数）.................かんたん撮影ゾーン：ISO 100～800自動設定
応用撮影ゾーン：ISO 100～1600任意設定（1/3段ステップ）、自動設定、およびISO3200の感度拡張が可能
露出補正............................手動：1/3、1/2段ステップ±2段（AEB併用可能）
AEB ：1/3、1/2段ステップ±2段
AEロック..........................自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式...................................電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度.................1/8000～30秒（1/3、1/2段ステップ）、バルブ、X=1/250秒
レリーズ方式.....................ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー.................10秒後/2秒後撮影
リモコン............................N3タイプ端子リモコン対応

■内蔵ストロボ

形式...................................リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
調光方式............................E-TTL II 自動調光
ガイドナンバー.................13（ISO 100・m）
充電時間............................約3秒
充電完了表示.....................ファインダー内ストロボ充電完了マーク点灯

照射角................................ 焦点距離17mm相当の画角に対応
ストロボ調光補正 .... 1/3、1/2段ステップ±2段
FEロック .... 可能

■外部ストロボ
対応ストロボ .... EXシリーズスピードライト
調光方式............................ E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正 .... 1/3、1/2段ステップ±2段
FEロック .... 可能
外部ストロボ設定機能...... ストロボ機能設定、ストロボカスタム機能設定可能
シンクロ端子 .... あり
画面サイズ対応ズーム...... 対応

■ドライブ関係
ドライブモード .... 1枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、セルフタイマー
10秒/2秒
連続撮影速度 .... 高速：最高約6.5コマ/秒
低速：最高約3コマ/秒
連続撮影可能枚数 .... JPEG（ラージ／ファイン）：約75枚、RAW：約17枚
RAW+JPEG（ラージ／ファイン）：約14枚
* 当社試験基準1GB CFカード使用時、高速連続撮影、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード設定時
* 被写体やCFカードの銘柄、記録画質、ISO感度、ドライブモード、ピクチャースタイルなどの設定により異なる

■ライブビュー機能
撮影方式............................ （1）ライブビュー撮影
（2）リモートライブビュー撮影
（EOS Utilityがインストールされたパソコン接続時）
フォーカス .... 手動ピント合わせ
オートフォーカス（ライブビュー表示を中断してAF）
測光方式............................ 撮像素子による評価測光
測光範囲............................ EV 0～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100）
拡大表示............................ フォーカスフレーム内を5倍／10倍に拡大可能
グリッド表示 .... 可能
露出シミュレーション...... 可能
静音撮影............................ 可能（モード1、モード2）

■液晶モニター

形式....................................TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ.........................3.0型
画素数................................約23万画素
視野率................................約100%
輝度調整............................7段階に調整可能
表示言語............................18言語

■再生機能

画像表示形式.....................1枚、1枚＋記録画質、撮影情報、ヒストグラム、4枚/9枚インデックス、拡大ズーム（約1.5～10倍）、画像回転、ジャンプ（1枚/10枚/100枚/1画面/撮影日）
ハイライト表示..................可能（ハイライト部分を点滅表示）

■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト.........................1枚単位でプロテクト、解除
消去....................................1枚／チェックマーク付き画像／カード内全画像の単位で消去（プロテクト画像を除く）

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター..................PictBridge対応プリンター
印刷対応画像.....................DCFに準拠したJPEG画像（DPOF指定画像の印刷も可能）、および本機種で撮影したRAW/sRAW画像
簡単印刷機能.....................あり

■印刷指定機能

DPOF バージョン1.1準拠

■ダイレクト画像転送機能

転送対応画像.....................JPEG画像、RAW／sRAW画像
* パソコン画面の背景として転送する場合はJPEG画像のみ

■カスタマイズ機能

カスタム機能.....................全24種
カメラユーザー設定..........モードダイヤルのC1～C3に登録
マイメニュー登録..............可能

■インターフェース

USB端子...........................パソコン通信／ダイレクトプリント用（USB 2.0 Hi-Speed）
ビデオ出力端子..................NTSC／PAL選択可能
拡張システム端子..............WFT-E3接続用

■電源

使用電池............................バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512、1個使用
* ACアダプターキットACK-E2使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップBG-E2N、BG-E2装着時、単3形電池使用可能

撮影可能枚数.....................［約・枚］

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	1100	800
低温（0℃）	950	700

* フル充電のバッテリーパックBP-511A使用時
* CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準による

電池チェック.....................自動
節電機能............................あり、設定時間（1/2/4/8/15/30分）経過で電源切
日付/時計機能用電池.......CR2016リチウム電池、1個使用
起動時間............................約0.15秒

■大きさ・質量

大きさ................................145.5（幅）×107.8（高さ）×73.5（奥行）mm
質量....................................約740g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度.....................0℃～+40℃
使用可能湿度.....................85%以下

■バッテリーパックBP-511A

形式....................................リチウムイオン電池
公称電圧............................DC7.4V
容量....................................1390mAh
大きさ................................38（幅）×21（高さ）×55（奥行）mm
質量....................................約82g

■バッテリーチャージャー CG-580

充電可能電池.....................バッテリーパックBP-511A、BP-514、BP-511、BP-512
充電時間............................BP-511A、BP-514：約100分
BP-511、BP-512：約90分
定格入力............................AC100～240V（50/60Hz）
定格出力............................DC8.4V
使用可能温度.....................0℃～+40℃

使用可能湿度 85%以下
大きさ ....91（幅）×67（高さ）×31（奥行）mm
質量...................................約115g

■EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS

画角...................................対角線：74°20′～27°50′
水平：64°30′～23°20′
垂直：45°30′～15°40′
構成枚数 9群11枚
最小絞り ....F22－36
最短撮影距離 0.25m
最大撮影倍率 ....0.34倍（55mm時）
画界...................................207×134mm～67×45mm（0.25m時）
フィルター径 58mm
最大径×長さ ....68.5×70mm
質量...................................約200g
対応フード EW-60C
対応ケース LP814

■EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM

画角...................................対角線：78°30′～18°25′
水平：68°40′～15°25′
垂直：48°00′～10°25′
構成枚数 12群17枚
最小絞り ....F22－32
最短撮影距離 0.35m
最大撮影倍率 ....0.2倍（85mm時）
画界...................................328×219mm～112×75mm（0.35m時）
フィルター径 67mm
最大径×長さ ....78.5×92mm
質量...................................約475g
対応フード EW-73B
対応ケース LP1116

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
- Mac OS Xは、米国および他の国で登録された、米国アップルコンピュータ社の商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

＊ このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷出力結果を得ることができます。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

索　引

英数字

あ

か

ま

や

ら

わ

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理については、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店、または別紙のお客様ご相談窓口、修理受付窓口にお問い合わせください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社
canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2007年8月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、別紙のお客様相談センターにお問い合わせください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5230 - 000

PRINTED IN JAPAN
0000Ni0.0